
18歳選挙権に関する意識調査

報 告 書

平成28年12月

〈 目 次 〉

【調査の概要】

1	調査の目的	1
2	調査の概要	1
3	調査業務期間	1
4	調査実施機関	1
5	表記上の注意	2

I 調査結果の要旨

1	調査対象者の概要・背景状況	3
2	投票行動	3
3	政治に関する考え等	5
4	期日前投票制度、不在者投票制度の認知状況等	5
5	憲法改正のための国民投票制度の認知状況	6

II 調査結果の詳細

1	調査対象者の概要	7
	(1)調査対象者の地域別・性別・年齢別構成	7
	(2)調査対象者の学校種類別割合・社会人割合	8
2	調査結果の詳細	9
	Q 1 あなたは、次の人と政治の話をすることがありますか。(単一回答)	9
	Q 2 あなたは子供のころ、親が行く投票について行ったことがありますか。(単一回答)	11
	Q 3 今回の参議院選挙で、あなたが見たり聞いたりしたものが下記の中にありますか。(複数回答)	11

Q 4 あなたは、7月10日(日)に行われた参議院選挙の投票に行きましたか。(期日前投票、不在者投票を含む。)(単一回答)	12
Q 5 あなたが投票に行ったのはどういう気持ちからですか。次の中からあなたの考えに近いものをいくつか選んでください。(複数回答)	16
Q 6 あなたは、7月10日(日)の投票日当日に投票しましたか。それとも期日前投票又は不在者投票をしましたか。(単一回答)	18
Q 7 あなたは、参議院選挙の投票は誰と行きましたか。(単一回答)	19
Q 8 あなたは、政党や候補者をどのような基準で選びましたか。次の中からあなたの考えに近いものをひとつ選んでください。(単一回答)	20
Q 9 あなたは、今回の参議院選挙で一票を投じてみて、どう思いましたか。次の中からあなたの感想に近いものをいくつか選んでください。(複数回答)	22
Q 10 (投票に行った人に対して)あなたは、今後も投票に行こうと思いますか。(単一回答)	23
Q 11 投票に行かなかったのは、なぜですか。次の中からあなたの考えに近いものをいくつか選んでください。(複数回答)	24
Q 12 (投票に行かなかった人に対して)あなたは今後、投票に行こうと思いますか。(単一回答)	27
Q 13 選挙権年齢の引き下げ後に行われた最初の国政選挙(参議院選挙)を通じて、あなたの政治に対する考えに近いものを、次の中からいくつか選んでください。(複数回答)	28
Q 14 あなたは、高校(高専等含む)の時に、選挙や政治に関してどのような授業を受けましたか、次の中からいくつか選んでください。(複数回答)	29
Q 15 平成27年度より高校生向け副教材「私たちが拓く日本の未来」が全国の高校に配布されていますが、あなたは、高校生がより選挙や政治に関心を持つためには、何をすればよいと思いますか。当てはまるものを2つまで選んでください。(複数回答)	32
Q 16 投票日当日に予定がある方は、投票日の前に期日前投票所で投票することができます。これを期日前投票といいますが、あなたは知っていますか。(単一回答)	33
Q 17 選挙期間中、他の市町村に滞在している方、病院等の施設にいる方、身体障害等の要件に該当する方は、不在者投票をすることができますが、あなたは知っていますか。(単一回答)	34
Q 18 進学や就職などに伴い、実家などを離れる方は、引っ越し先の市区町村へ住民票を移さなければなりません、あなたはこのことを知っていますか。(単一回答)	35
Q 19 あなたは、親御さんと一緒に住んでいますか。(単一回答)	35
Q 20 あなたは、現在あなたが住んでいる市区町村に住民票を移していますか。(単一回答)	36
Q 21 (住民票を移していない人に対して)なぜ移さないのですか。(単一回答)	37
Q 22 現在住んでいる市区町村で投票をするには、住民票を移してから3か月以上住んでいなければなりません、あなたはこのことを知っていますか。(単一回答)	39
Q 23 あなたは、憲法改正のための国民投票制度(憲法改正国民投票制度)を知っていますか。(単	

【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、全国の18歳～20歳の投票行動等の実態を調査し、今後の選挙啓発等の資料とすることを目的として実施した。

2 調査の概要

(1)調査対象

全国の満18～20歳（平成28年7月10日現在）の男女個人

(2)標本数

3,000人

(3)調査方法

インターネット調査法

(4)標本抽出法

モニターから、調査対象の性別、年齢等の偏在がないこと、地域間人口構成比（国勢調査に準拠）の偏在が生じないことを考慮して抽出した。

(5)調査内容

- ①家族・友人との政治に関する話の有無
- ②今回の参議院選挙に関連して見たもの聞いたもの
- ③投票行動の実態とその理由
- ④今後の投票意向
- ⑤高校時に受けた選挙・政治関連授業
- ⑥期日前投票・不在者投票の認知度
- ⑦国民投票制度の認知度 等

(6)インターネット調査実査期間

平成28年10月20日（木）～平成28年10月31日（月）

3 調査期間

平成28年10月5日（水）～平成28年12月9日（金）

4 調査実施機関

株式会社流通リサーチ

5 表記上の注意

- ①本報告書の集計結果は原則として小数点第二位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。
- ②複数回答の集計結果は合計が100%を超える場合がある。
- ③回答者が30名未満の場合は原則として本文中では言及せず、選択された回答の割合は、参考数値として取り扱うこととする。
- ④同類の回答選択肢（「よくある」「ときどきある」等）を集約した場合は『 』で示した。
- ⑥本報告書で使用した符号は以下のとおり。

n : 回答者数

I 調査結果の要旨

1 調査対象者の概要・背景状況

○調査対象者の社会属性別構成は、学生が85.2%、社会人が11.1%、その他が3.7%であった。

○調査対象者全員に、家族や友人と政治の話をするかどうかを尋ねたところ、家族と政治の話をするのが『ある(よくある+ときどきある)』は36.0%、友人と政治の話をするのが『ある(よくある+ときどきある)』は26.0%であった。

○調査対象者全員に、子供の頃、親が行く投票について行ったことがあるかを尋ねたところ、「ある」は50.1%であった。

○調査対象者全員に、今回の参議院選挙で見たり聞いたりしたものを14の選択肢から選択してもらったところ、上位3つは「テレビのニュースや報道番組 50.2%」「政党や候補者のポスター36.6%」「インターネットのニュースサイト 28.9%」であった。

2 投票行動

○調査対象者全員に、7月10日の参議院選挙の投票に行ったかを尋ねたところ、「投票に行った」は52.5%であった。

- ・家族あるいは友人と政治の話をするのが「よくある」と回答した人では、「投票に行った」はそれぞれ76%強だが、その割合は、話をするものの頻度が低下するにつれて大きく減少していき、「ほとんどない」と回答した人では、それぞれ40.6%、44.9%になる。
- ・子どもの頃に親が行く投票について行ったことが「ある」と回答した人では、「投票に行った」は63.0%だが、その割合は、「ない」と回答した人では41.8%へと減少する。
- ・高校時に選挙・政治関連の何らかの授業を受けたことが「ある」と回答した人では、「投票に行った」は55.7%だが、その割合は、「(授業を受けたことが)ない」と回答した人では48.5%に減少する。
- ・親と「一緒に住んでいる」と回答した人では、「投票に行った」は61.5%だが、その割合は「一緒に住んでいない」と回答した人では32.6%へと大きく減少する。
- ・親と一緒に住んでいない場合、「住民票を現住所に移している」と回答した人では「投票に行った」は39.5%だが、その割合は「移していない」と回答した人では29.9%へと減少する。

○投票に行った人に、投票に行った気持ちを8つの選択肢から選択してもらったところ、上位3つは「国民の義務だから 39.3%」「政治をよくするためには投票することが大事だから 33.9%」「選挙年齢引き下げ後にはじめて行われた国政選挙だったから 33.5%」であった。

○投票に行った人の投票方法は、『現在の市区町村で投票(当日+期日前)』が 86.0%で最も多く、『実家など以前の市区町村で投票(当日+期日前)』は 7.9%、「不在者投票」は 3.6%であった。

○投票に行った人に誰と行ったかを尋ねたところ、「家族と行った」が 62.0%で最も多く、「1人で行った」は 32.4%、「友人と行った」が 4.7%であった。性別による違いが大きく、「家族と行った」は女性(75.5%)が男性(50.8%)よりかなり多く、一方、「1人で行った」は女性(21.3%)が男性(41.7%)よりかなり少ない。年齢による違いも大きく、「家族と行った」は18歳が70.2%で最も多く、19歳で59.8%、20歳で56.8%へと減少し、一方、「1人で行った」は18歳が25.5%で最も少なく、19・20歳では35%強に増加する。

○投票に行った人に、政党や候補者を選んだ基準を8つの選択肢から選択してもらったところ、上位3つは「自分の考えに近い政策を訴えていたか 34.2%」「家族や知人の評価 14.0%」「基準など設けなくて直感で選んだ 13.5%」であった。

○投票に行った人に、1票を投じて思ったことを9つの選択肢から選択してもらったところ、上位3つは「投票は簡単だった 38.6%」「自分で考えて1票を投じることができたのでよかった 32.5%」「有権者としての責任を感じた 30.0%」であった。

○投票に行った人の今後の投票意向は、『行こうと思う(毎回行こうと思う+できるだけ行こうと思う+関心が持てる選挙だけ行こうと思う)』が 93.7%であった。

○投票に行かなかった人に、その理由を13の選択肢から選択してもらったところ、上位3つは「今住んでいる市区町村で投票することができなかったから 21.7%」「選挙にあまり関心がなかったから 19.4%」「投票所に行くのが面倒だったから 16.1%」であった。性別に見ると、男性は「今住んでいる市区町村で投票することができなかったから」が 23.7%で最も多く、女性は「選挙にあまり関心がなかったから」が 22.0%で最も多い。年齢別に見ると、18・19歳は「今住んでいる市区町村で投票することができなかったから」がそれぞれ 15.6%、27.5%で最も多く、20歳は「選挙にあまり関心がなかったから」が 25.7%で最も多い。

○投票に行かなかった人の今後の投票意向は、『行こうと思う(今後は毎回行こうと思う+できるだけ行こうと思う+関心が持てる選挙だけ行こうと思う)』が 66.3%であった。『行こうと思う』は 18 歳が 72.6%で最も多く、19 歳では 66.3%、20 歳では 59.6%になる。

3 政治に関する考え等

○調査対象者全員に、政治に対する考えを9つの選択肢から選択してもらったところ、「多くの若者の声が集まれば若者の望む政治が行われると思うようになった」が 24.8%で最も多く選択された。

○調査対象者全員に、高校の時に選挙や政治に関して受けた授業を13の選択肢から選択してもらったところ、上位2つは「選挙の仕組みや投票方法を学ぶ授業 25.9%」「『私たちが拓く日本の未来』を使用した授業 17.2%」で、他の授業は 10%未満であった。また、「どれも受けたことがない」は、18 歳が 28.9%で最も少なく、19 歳では 38.3%、20 歳では 50.0%に増加する。

○調査対象者全員に、高校生が選挙や政治に関心を持つために何をすればよいかを11の選択肢から選択してもらったところ、上位3つは「学校で模擬選挙を体験する 23.1%」「学校で選挙や政治に関するディベートや話し合いを行う 16.8%」「議員や政党の関係者に来てもらって政治の話を聞く 13.3%」であった。

4 期日前投票制度、不在者投票制度の認知状況等

○調査対象者全員に期日前投票制度の認知状況を尋ねたところ、『知っている(よく+だいたい)』が 71.5%であった。その割合は 18 歳が 73.6%で最も多く、19 歳では 72.1%、20 歳では 68.8%へと減少する。

○調査対象者全員に不在者投票制度の認知状況を尋ねたところ、『知っている(よく+だいたい)』は 43.4%で、期日前投票制度ほど認知されていない。その割合は 18 歳が 46.4%で最も多く、19 歳では 43.9%、20 歳では 39.8%へと減少する。

○調査対象者全員に、実家を離れる場合は引越先の市区町村へ住民票を移す必要があることの認知状況を尋ねたところ、「知っていた」は 66.1%であった。

○調査対象者全員に、親との同居状況を尋ねたところ、「一緒に住んでいる」が68.8%であった。その割合は18歳が79.1%で最も多く、19歳では65.5%、20歳では61.7%へと減少していく。

○親と一緒に住んでいないと回答した人に、住民票の異動状況を尋ねたところ、「移している」は32.7%に留まり、「移していない」が56.4%で半数を超え、「わからない」が11.0%であった。「移している」は女性(35.9%)が男性(29.5%)より多く、年齢別に見ると、18歳が26.3%で最も少なく、19歳では29.6%に、20歳では38.9%に増加する。

○親と一緒に住んでいないが住民票を移していない人に、その理由を6つの選択肢から選択してもらったところ、上位3つは「いずれ実家に戻るつもりだから29.0%」「成人式に参加できなくなるなど不都合が生じると思って17.6%」「親が移さなくていいと言っているから15.2%」であった。

○調査対象者全員に、現在住んでいる市区町村で投票するためには住民票異動後3ヶ月以上が必要なことを知っているかを尋ねたところ、「知っていた」は38.6%であった。

5 憲法改正のための国民投票制度の認知状況

○調査対象者全員に、憲法改正のための国民投票制度を知っているかを尋ねたところ、『知っている(よく+だいたい+言葉は聞いたことがある)』は81.4%であった。

II 調査結果の詳細

1 調査対象者の概要

(1) 調査対象者の地域別・性別・年齢別構成

男女別・性別に均等、かつ全国6ブロック別に統計上の人口比率に準じた標本構成を目標としたが、今回の対象年齢（18・19・20歳）がモニター数の少ない年齢帯であることから目標標本数が獲得できない地域が発生した。

標本数が少ない地域を他の地域の標本で補填した結果、以下の表中の青字数値が今回の標本数となった。

【標本構成】		(単位:人)										
(地域) (都道府県)	地域別人口構成の統計値 (平成22年国勢調査結果)		標本の地域別・性別・年齢別の構成								合計	構成
	構成		男性			女性			構成			
			18歳	19歳	20歳	18歳	19歳	20歳				
全国	128,057,352	100%	500	500	500	500	500	500	500	3000	100%	
北海道・東北	14,842,055	11.6%	58	58	58	58	58	58	58	348	11.6%	
01 北海道			59	58	58	58	58	59	58	350	11.7%	
02 青森県												
03 岩手県												
04 宮城県												
05 秋田県												
06 山形県												
07 福島県												
関東	42,604,085	33.3%	166	166	166	166	166	166	166	996	33.2%	
08 茨城県			171	169	168	168	170	166	166	1012	33.7%	
09 栃木県												
10 群馬県												
11 埼玉県												
12 千葉県												
13 東京都												
14 神奈川県												
中部	21,715,822	17.0%	85	85	85	85	85	85	85	510	17.0%	
15 新潟県			85	85	85	83	77	85	85	500	16.7%	
16 富山県												
17 石川県												
18 福井県												
19 山梨県												
20 長野県												
21 岐阜県												
22 静岡県												
23 愛知県												
近畿	22,757,897	17.8%	89	89	89	89	89	89	89	534	17.8%	
24 三重県			92	91	89	90	92	89	89	543	18.1%	
25 滋賀県												
26 京都府												
27 大阪府												
28 兵庫県												
29 奈良県												
30 和歌山県												
中国・四国	11,540,710	9.0%	45	45	45	45	45	45	45	270	9.0%	
31 鳥取県			46	39	43	45	44	45	45	262	8.7%	
32 島根県												
33 岡山県												
34 広島県												
35 山口県												
36 徳島県												
37 香川県												
38 愛媛県												
39 高知県												
九州・沖縄	14,596,783	11.4%	57	57	57	57	57	57	57	342	11.4%	
40 福岡県			47	58	57	56	58	57	57	333	11.1%	
41 佐賀県												
42 長崎県												
43 熊本県												
44 大分県												
45 宮崎県												
46 鹿児島県												
47 沖縄県												

(2) 調査対象者の学校種類別割合・社会人割合

(全体)

● 今回の調査対象者は、学生が 85.2%、社会人が 11.1%、その他が 3.7%であった。

● 学生の内訳は多い順に以下であった。

- ① 大学生 : 52.9%
- ② 高校生 : 21.0% (高専生、高等専修学校生を含む)
- ③ 専門学生 : 8.7%
- ④ 短大生 : 2.6%

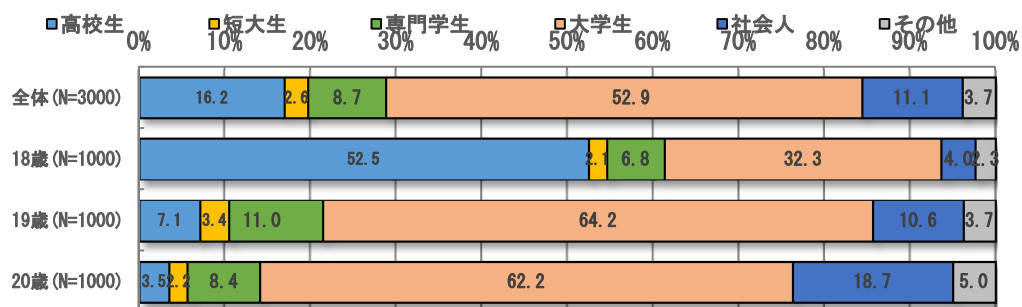
計 : 85.2

● 本調査においては、調査対象の年齢・性別が均等になるよう調査したものであるが、その他の属性については偏りが生じる可能性があり、調査結果と実態は必ずしも合致しない。

(年齢別)

● 全ての年齢で学生が最も多いが、その割合は年齢が上がるにつれて少なくなる (18歳 93.7%→19歳 85.7%→20歳 76.3%)。

● 学校の種類別に見ると、18歳では「高校生 52.5%」が最も多いが、19～20歳では大学生 63%前後」が最も多い。



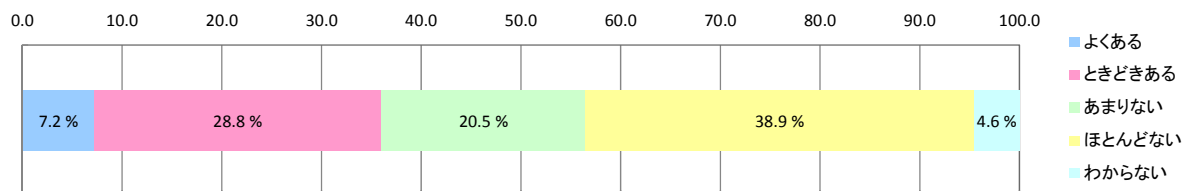
2 調査結果の詳細

Q1 あなたは、次の人と政治の話をすることがありますか。(単一回答)

(1) 家族と政治の話をする

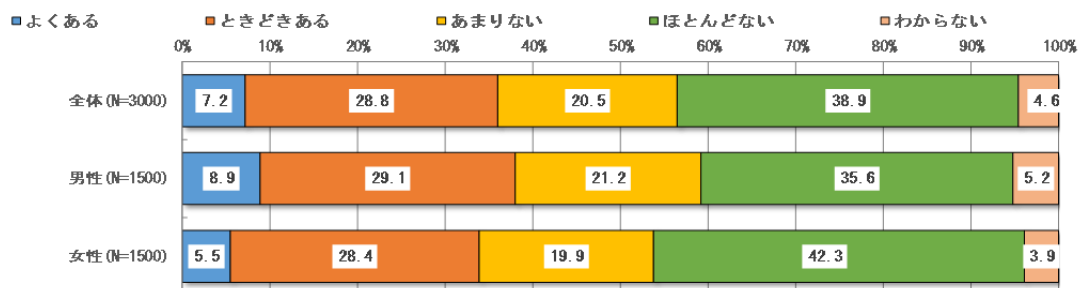
(全体)

● 家族と政治の話をするについては、『ある』は 36.0% (「ときどきある 28.8%」「よくある 7.2%」の合計。以下、同じ) と半数に及ばず、『ない』が 59.4% (「あまりない 20.5%」「ほとんどない 38.9%」の合計。以下、同じ) でほぼ 6 割を占め、「わからない」が 4.6%であった。



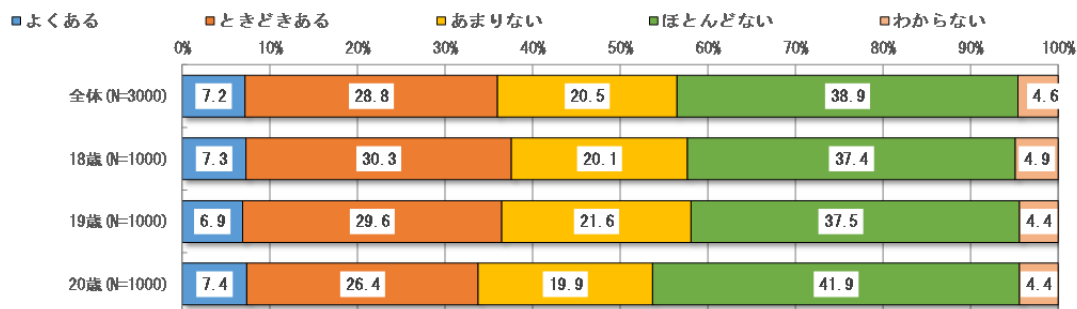
(性別)

● 『ある』は男性 (38.0%) が女性 (33.9%) より約 4 ポイント多い。



(年齢別)

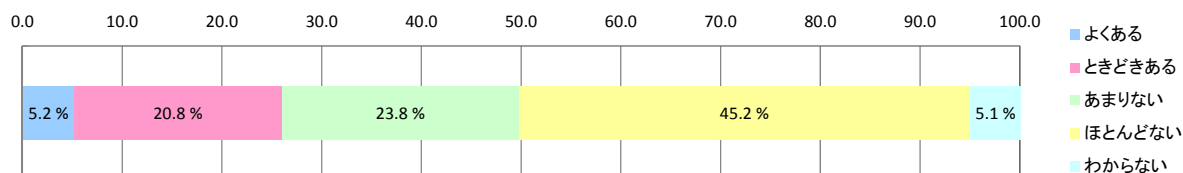
● 『ある』は 18 歳が 37.6% で最も多く、年齢が上がるにつれて漸減し、19 歳では 36.5% に、20 歳では 33.8% になる。



(2) 友人と政治の話をする

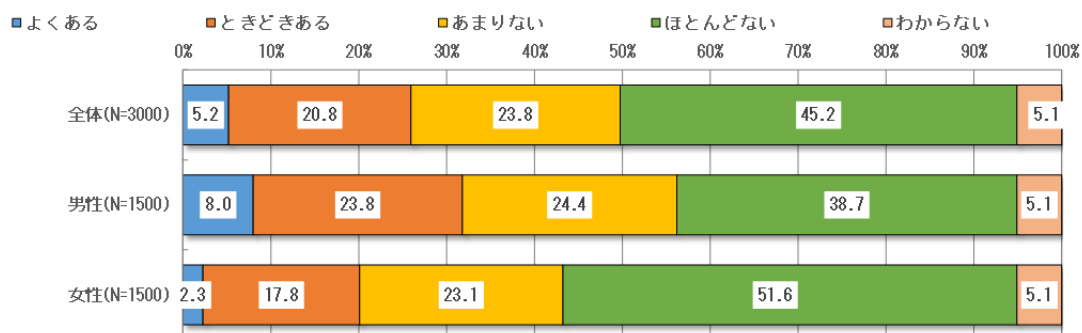
(全体)

- 友人と政治の話をすることについては、『ある』が家族と話す割合より約 10 ポイント少ない 26.0%（「ときどきある 20.8%」「よくある 5.2%」の合計。以下、同じ）で、『ない』が 69.0%（「あまりない 23.8%」「ほとんどない 45.2%」の合計。以下、同じ）でほぼ 7 割を占め、「わからない」が 5.1%であった。



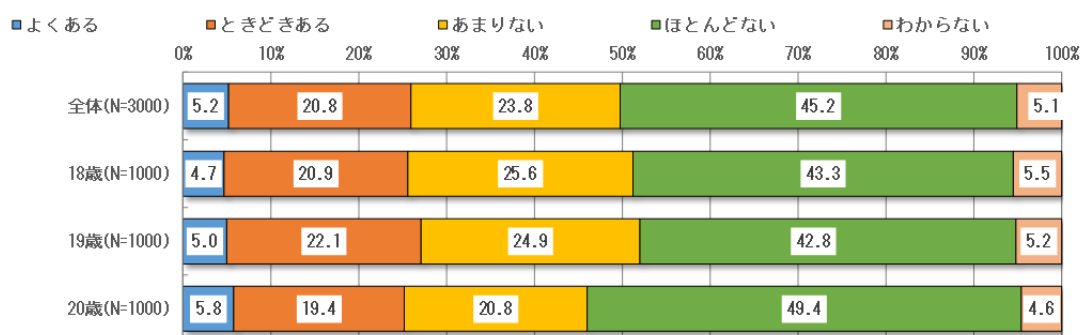
(性別)

- 『ある』は男性（31.8%）が女性（20.1%）より約 12 ポイント多い。



(年齢別)

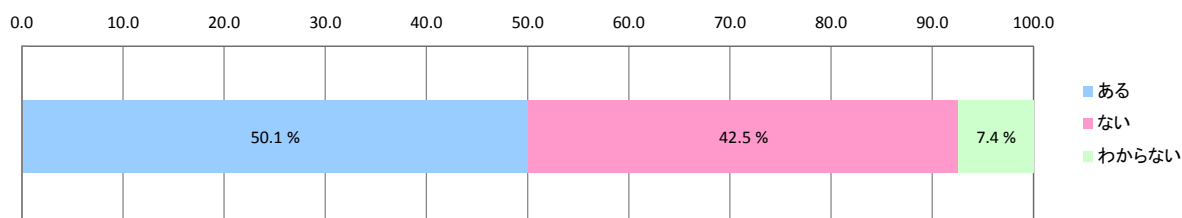
- 『ある』は年齢による違いは少なく、全ての年齢で 26%前後であった。



Q 2 あなたは子供のころ、親が行く投票について行ったことがありますか。(単一回答)

(全体)

●子供のころ、親が行く投票について行ったことについては、「ある」が 50.1%で半数を若干超え、「ない」が 42.5%、「わからない」が 7.4%であった。



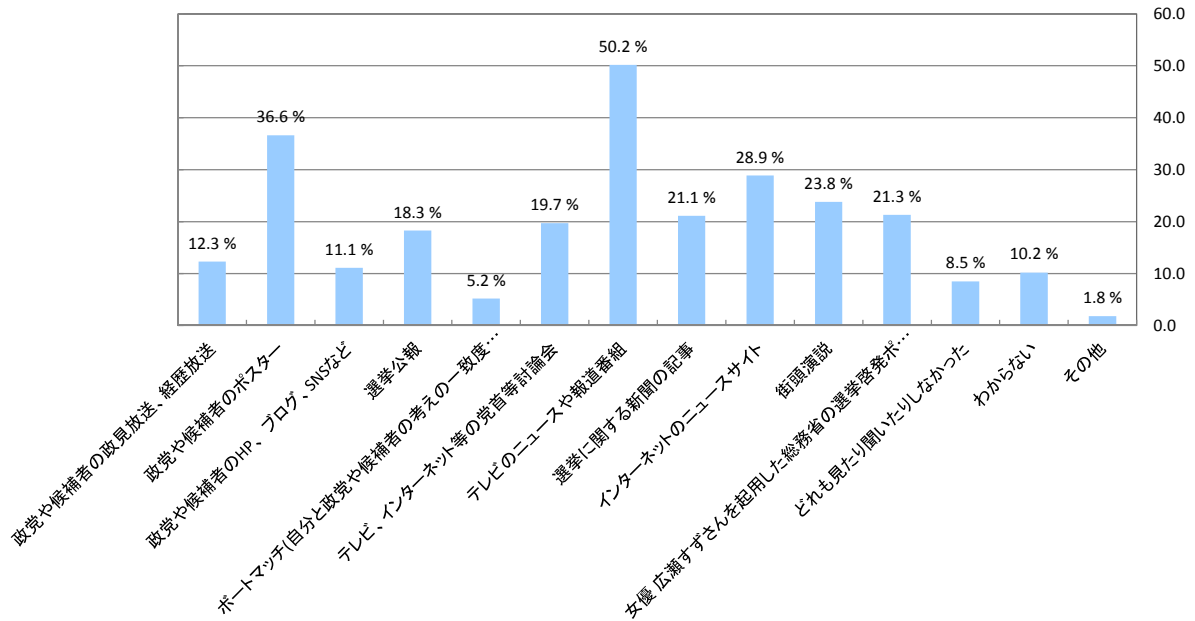
Q 3 今回の参議院選挙で、あなたが見たり聞いたりしたものが下記の中にありますか。

(複数回答)

(全体)

●今回の参議院選挙で見たり聞いたりしたものは多い順に以下となり、「テレビのニュースや報道番組」のみが半数を超えて最も多い。また、以下に示した以外のものについては回答割合は 10%未満であった。

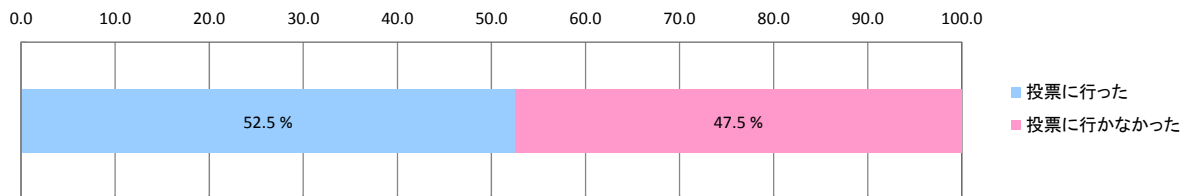
- | | |
|---------------------------------|---------|
| ①テレビのニュースや報道番組 | : 50.2% |
| ②政党や候補者のポスター | : 36.6% |
| ③インターネットのニュースサイト | : 28.9% |
| ④街頭演説 | : 23.8% |
| ⑤女優広瀬すずさんを起用した総務省の選挙啓発ポスター、HPなど | : 21.3% |
| ⑥選挙に関する新聞の記事 | : 21.1% |
| ⑦テレビ・インターネット等の党首等討論会 | : 19.7% |
| ⑧選挙公報 | : 18.3% |
| ⑨政党や候補者の政見放送、経歴放送 | : 12.3% |
| ⑩政党や候補者のHP、ブログ、SNSなど | : 11.1% |



Q 4 あなたは、7月10日(日)に行われた参議院選挙の投票に行きましたか。(期日前投票、不在者投票を含む。)(単一回答)

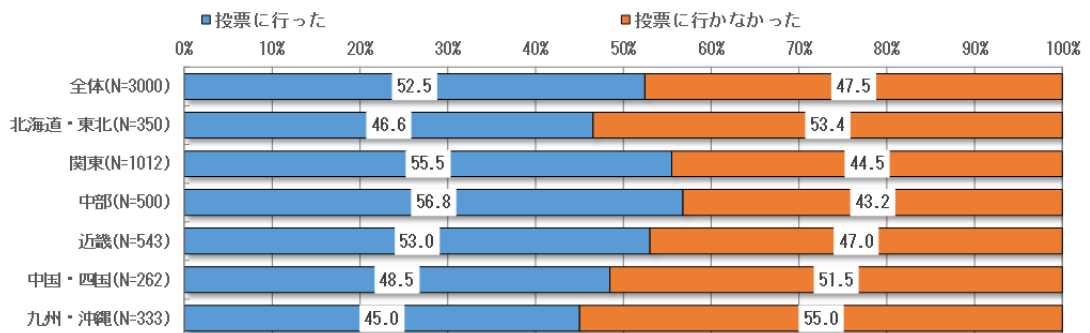
(全体)

●7月10日(日)に行われた参議院選挙の投票については、「投票に行った」が52.5%で半数を超えた。



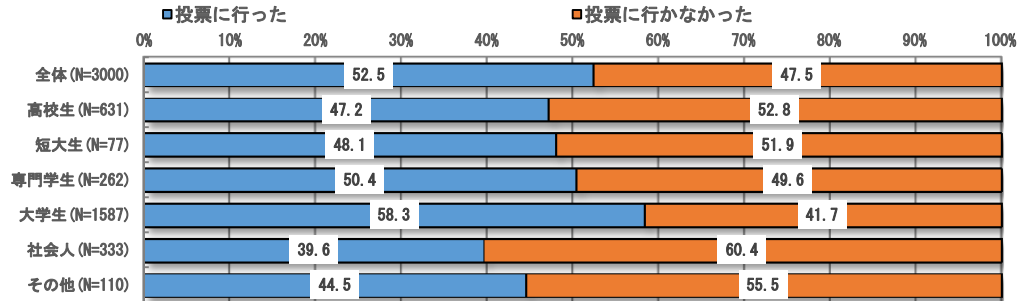
(地域別)

●「投票に行った」は、「中部地域」が56.8%で最も多く、「関東地域55.5%」「近畿地域53.0%」も半数を超えたが、「中国・四国地域48.5%」「北海道・東北地域46.6%」「九州・沖縄地域45.0%」では半数を下回った。



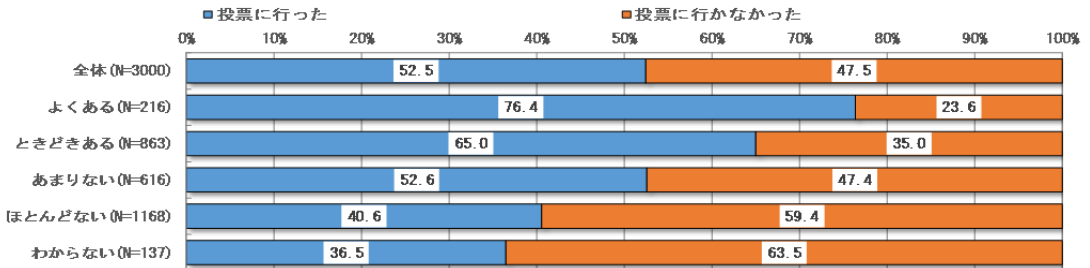
(社会属性別)

- 「投票に行った」は、「大学生」が58.3%で最も多く、「専門学生50.4%」は半数を上回ったが、「短大生48.1%」「高校生47.2%」は半数を下回り、「社会人39.6%」が40%を下回って最も少ない。



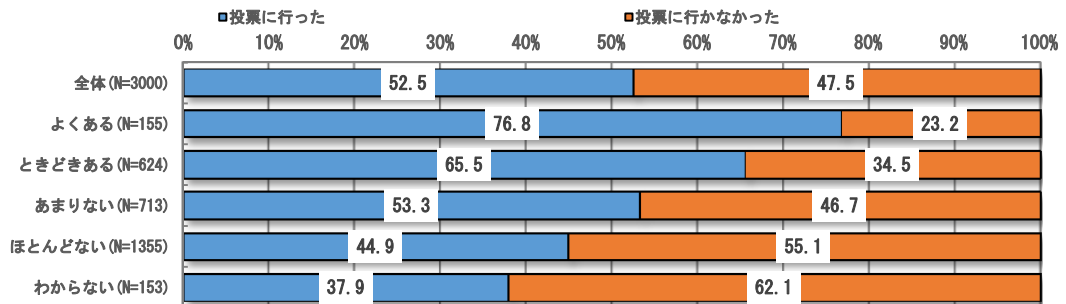
(家族と政治の話をする頻度別)

- 前述のQ 1 (1)「家族と政治の話をする」頻度での回答別に見ると、「よくある」と回答した人は「投票に行った」が76.4%で最も多く、その割合は、家族と政治の話をする頻度が低下するにつれて少なくなり、「ほとんどない」と回答した人では40.6%、「わからない」と回答した人では36.5%になる。



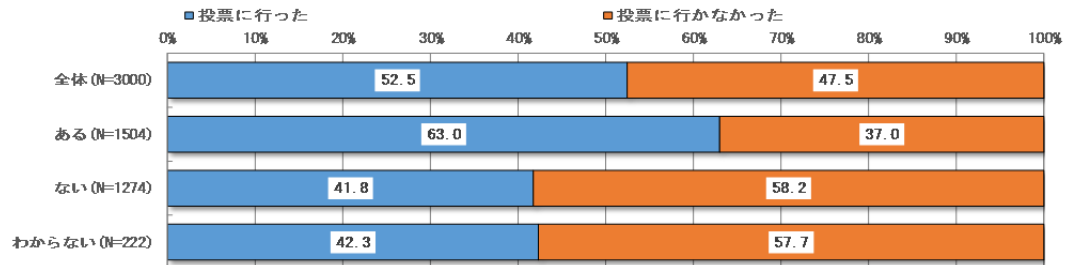
(友人と政治の話をする頻度別)

- 前述のQ 1 (2)「友人と政治の話をする」頻度での回答別に見ると、「よくある」と回答した人は「投票に行った」が76.8%で最も多く、その割合は、友人と政治の話をする頻度が低下するにつれて少なくなり、「ほとんどない」と回答した人では44.9%、「わからない」と回答した人では37.9%になる。



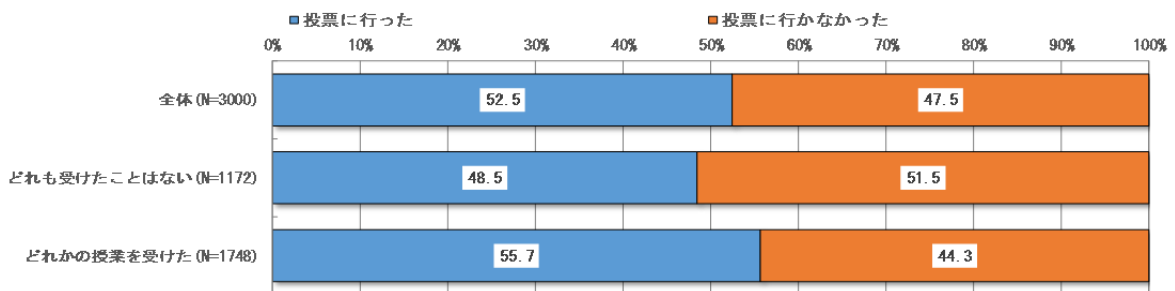
(子どもの頃、親が行く投票について行った経験の有無別)

●前述のQ2「あなたは子供のころ、親が行く投票について行ったことがありますか」での回答別に見ると、「(ついて行ったことが)ある」と回答した人は「投票に行った」が63.0%で、「ない」と回答した人の41.8%、「わからない」と回答した人の42.3%に比べて20ポイント以上多い。



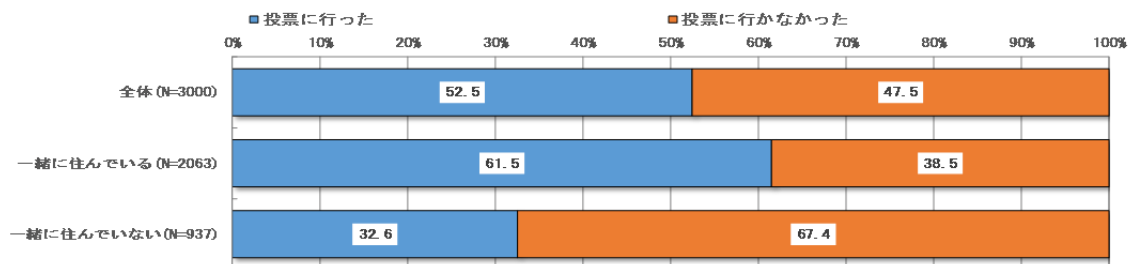
(高校時の選挙・政治関連授業の有無別)

●後述のQ14「あなたは、高校(高専等含む)の時に、選挙や政治に関してどのような授業を受けましたか、次の中からいくつでも選んでください」での回答別に見ると、高校時に選挙・政治関連授業を受けたことが「ある(何らかの授業を受けたことがある)」と回答した人は「投票に行った」が55.7%で、「ない(どれも受けたことはない)」と回答した人の48.5%を約7ポイント上回った。



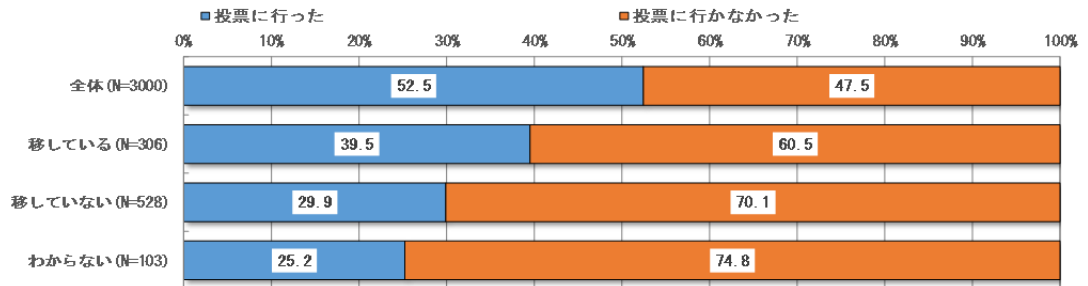
(親との同居・別居別)

●後述のQ19「あなたは、親御さんと一緒に住んでいますか」での回答別に見ると、「一緒に住んでいる」と回答した人では「投票に行った」は61.5%で、その割合は、「一緒に住んでいない」と回答した人の32.6%を大きく上回った。



(現住所への住民票の異動の有無別)

●後述のQ20「あなたは、現在あなたが住んでいる市区町村に住民票を移していますか」での回答別に見ると、住民票を「移している」と回答した人では「投票に行った」は39.5%で、「移していない」と回答した人の29.9%、「わからない」とした人の25.2%を上回った。

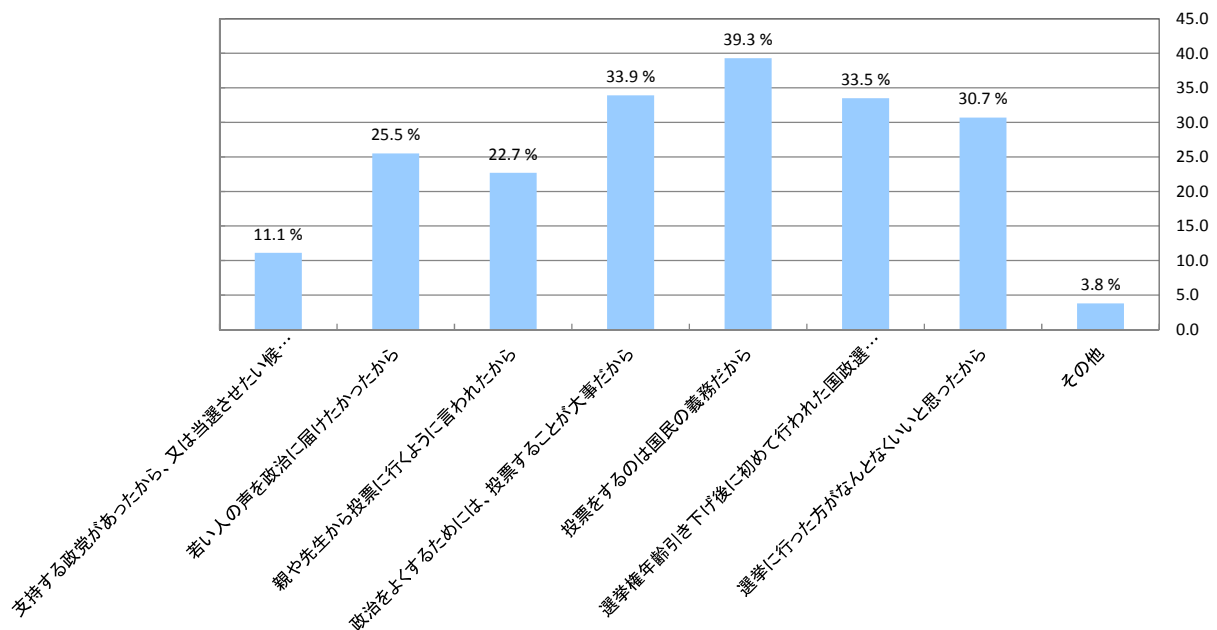


Q 5 あなたが投票に行ったのはどういう気持ちからですか。次の中からあなたの考えに近いものをいくつでも選んでください。(複数回答)

(全体)

●投票に行ったと回答した人(1,574名)にどういう気持ちから行ったかを聞いたところ、回答はやや分散したが多い順に以下となり、なかでは「投票をするのは国民の義務だから」が39.3%で最も多くなった。

- ①投票をするのは国民の義務だから : 39.3%
- ②政治をよくするためには投票することが大事だから : 33.9%
- ③選挙権年齢引き下げ後に初めて行われた国政選挙だったから : 33.5%
- ④選挙に行った方が何となくいいと思ったから : 30.7%
- ⑤若い人の声を政治に届けたかったから : 25.5%
- ⑥親や先生から投票に行くように言われたから : 22.7%
- ⑦支持する政党があったから、又は当選させたい候補者がいたから : 11.1%
- ⑧その他 : 3.8%



(性別)

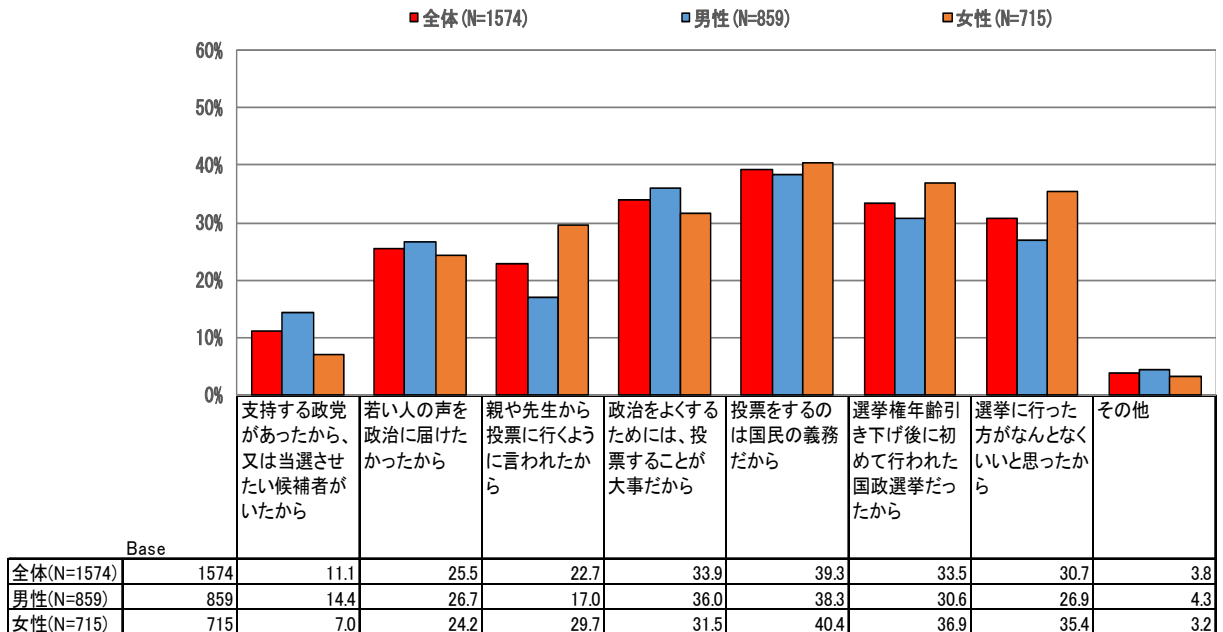
- 「投票をするのは国民の義務だから」が、男性が 38.3%、女性は 40.4%と最も選択された。次いで、男性は「政治をよくするためには、投票することが大事だから 36.0%」が続く。一方、女性は「選挙権年齢引き下げ後に初めて行われた国政選挙だったから 36.9%」「選挙に行った方が何となくいいと思ったから 35.4%」の順となった。
- 以下の選択肢については男女差がやや大きい。

〈男性>女性〉

- ・支持する政党があった、当選させたい候補者がいたから：男性 14.4%>女性 7.0% (約 7 ポイント差)

〈女性>男性〉

- ・親や先生から投票に行くように言われたから：女性 29.7%>男性 17.0% (約 13 ポイント差)
- ・選挙に行った方が何となくいいと思ったから：女性 35.4%>男性 26.9% (約 9 ポイント差)
- ・選挙権年齢引き下げ後に初めて行われた国政選挙だったから：女性 36.9%>男性 30.6% (約 6 ポイント差)



(年齢別)

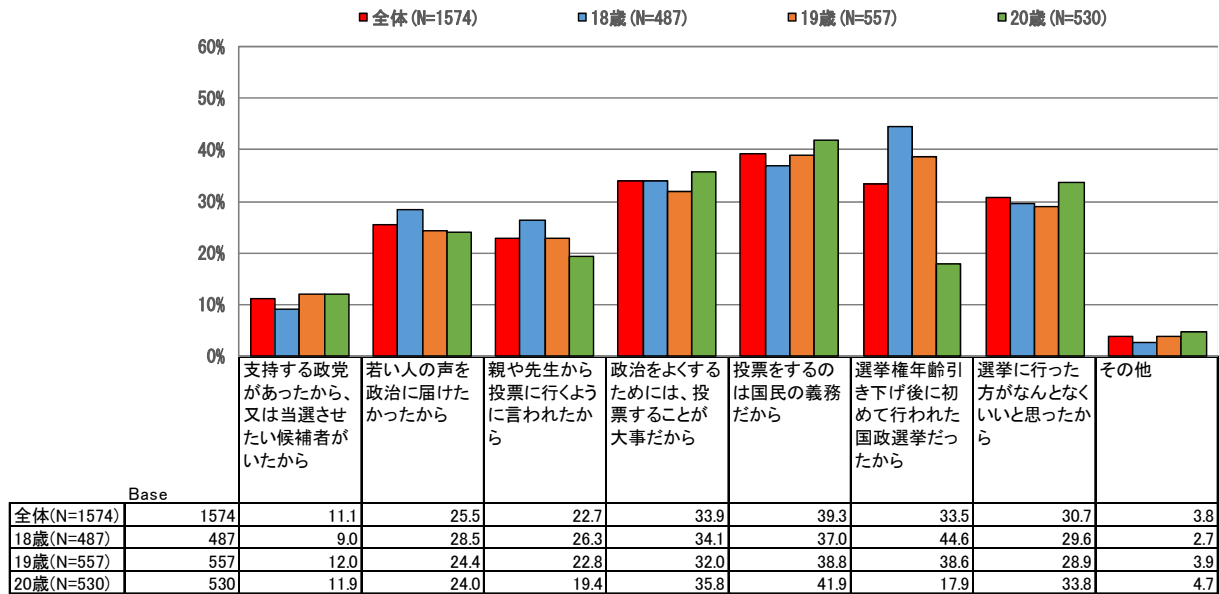
- 年齢による選択率に大きな差は無いが、以下については年齢間の差がやや大きい。

〈年齢が上がるにつれて増加〉

- ・投票をするのは国民の義務だから：18歳 37.0%<19歳 38.8%<20歳 41.9%

〈年齢が上がるにつれて減少〉

- ・親や先生から投票に行くように言われたから：18歳 26.3%>19歳 22.8%>20歳 19.4%
- ・選挙権年齢引き下げ後に初めて行われた国政選挙だったから：18歳 44.6%>19歳 38.6%>20歳 17.9%



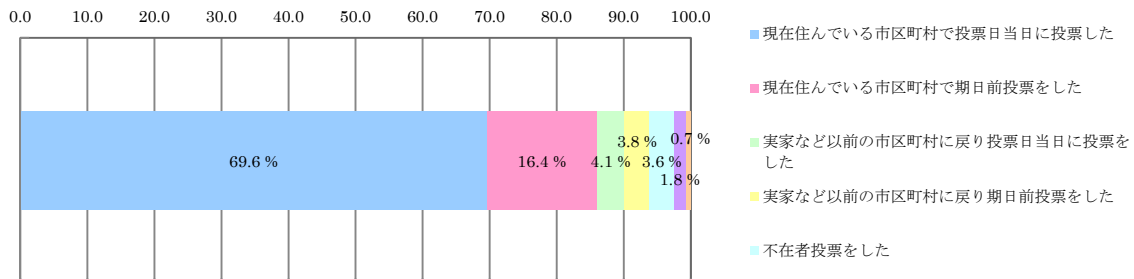
Q6 あなたは、7月10日（日）の投票日当日に投票しましたか。それとも期日前投票又は不在者投票をしましたか。（単一回答）

（全体）

●投票に行くと回答した人（1,574名）に投票方法を尋ねたところ、『現在の市区町村で投票した』（当日投票＋期日前投票）が86.0%で最も多かった。

- ①現在住んでいる市区町村で当日投票 : 69.6%
- ②現在住んでいる市区町村で期日前投票 : 16.4%
- ③実家など以前の市区町村に戻り当日投票 : 4.1%
- ④実家など以前の市区町村に戻り期日前投票 : 3.8%
- ⑤不在者投票 : 3.6%
- ⑥わからない : 1.8%

●一方、『実家など以前の市区町村で投票』（当日投票＋期日前投票）は7.9%で、「不在者投票」は3.6%であった。



(親と一緒に住んでいない回答者の住民票の異動状況別)

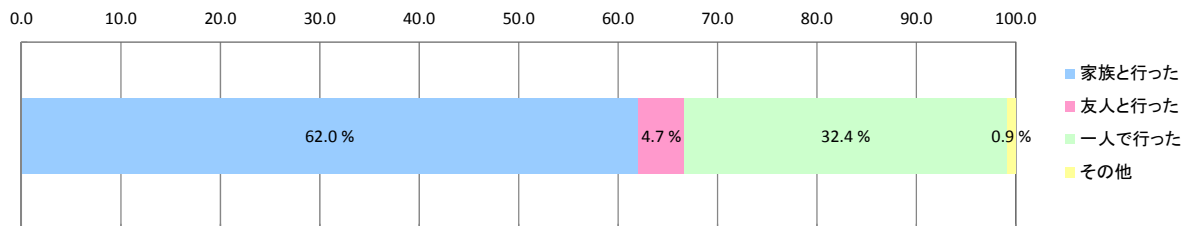
●後述のQ20「あなたは、現在あなたが住んでいる市区町村に住民票を移していますか」での回答別に無効回答を排除して見ると、「移している」と回答した人は『現在の市区町村で投票した』(当日投票+期日前投票)が87.3%、「不在者投票」が12.7%で、一方、「移していない」と回答した人は『実家など以前の市区町村で投票した』(当日投票+期日前投票)が69.7%、「不在者投票」が24.8%であった。

Q7 あなたは、参議院選挙の投票は誰と行きましたか。(単一回答)

(全体)

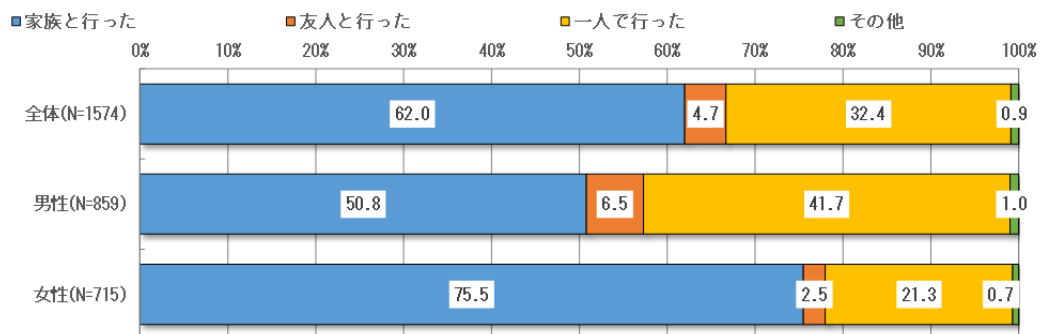
●投票に行ったと回答した人(1,574名)に、誰と行ったかを聞いたところ、以下の通りとなった。

- ①家族と行った : 62.0%
- ②1人で行った : 32.4%
- ③友人と行った : 4.7%



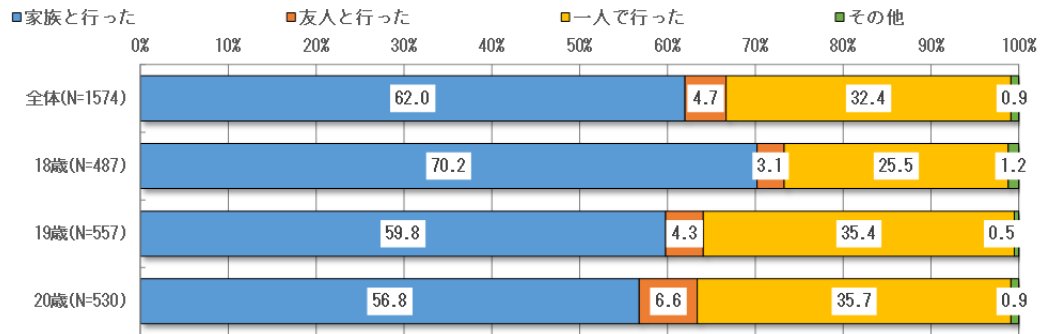
(性別)

●男女の違いは大きく、「家族と行った」は女性(75.5%)が男性(50.8%)より約25ポイント多く、一方、「1人で行った」は男性(41.7%)が女性(21.3%)より約20ポイント多い。



(年齢別)

●年齢による違いもやや大きく、「家族と行った」は18歳(70.2%)が19・20歳(57~60%)に比べて10ポイント以上多く、一方、「1人で行った」は逆に19・20歳(35%強)が18歳(25.5%)に比べて約10ポイント多い。

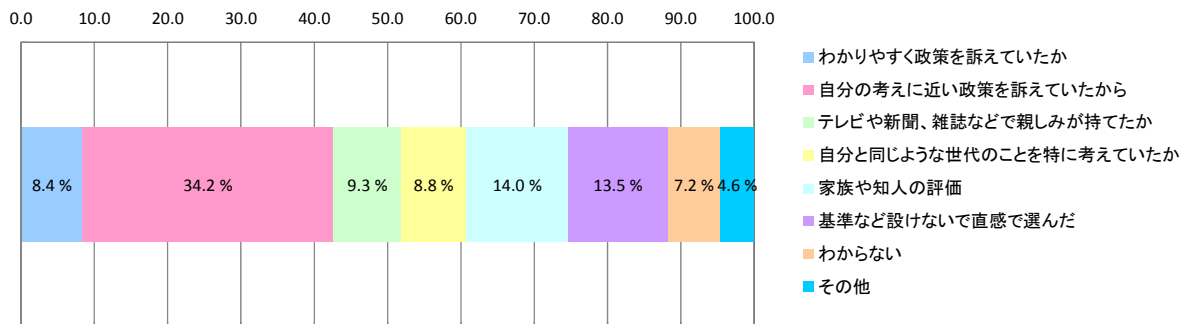


Q8 あなたは、政党や候補者をどのような基準で選びましたか。次の中からあなたの考えに近いものをひとつ選んでください。(単一回答)

(全体)

●投票に行ったと回答した人(1,574名)に、政党や候補者を選んだ基準を聞いたところ、「自分の考えに近い政策を訴えていたか」が34.2%と最も多かった。

- ①自分の考えに近い政策を訴えていたか : 34.2%
- ②家族や知人の評価 : 14.0%
- ③基準など設けなくて直感で選んだ : 13.5%
- ④テレビや新聞・雑誌などで親しみが持てたか : 9.3%
- ⑤自分と同じような世代のことを特に考えていたか : 8.8%
- ⑥わかりやすく政策を訴えていたか : 8.4%
- ⑦わからない : 7.2%



(性別)

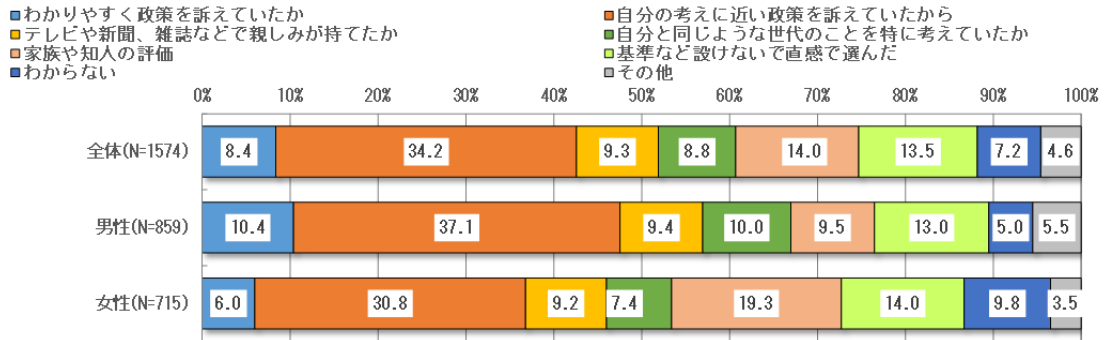
●男女で極端に大きな違いはないものの、以下の項目では5ポイント以上の差が発生した。

〈男性>女性〉

・自分の考えに近い政策を訴えていたか：男性 37.1%>女性 30.8% (約6ポイント差)

〈女性>男性〉

・家族や知人の評価 : 女性 19.3%>男性 9.5% (約10ポイント差)

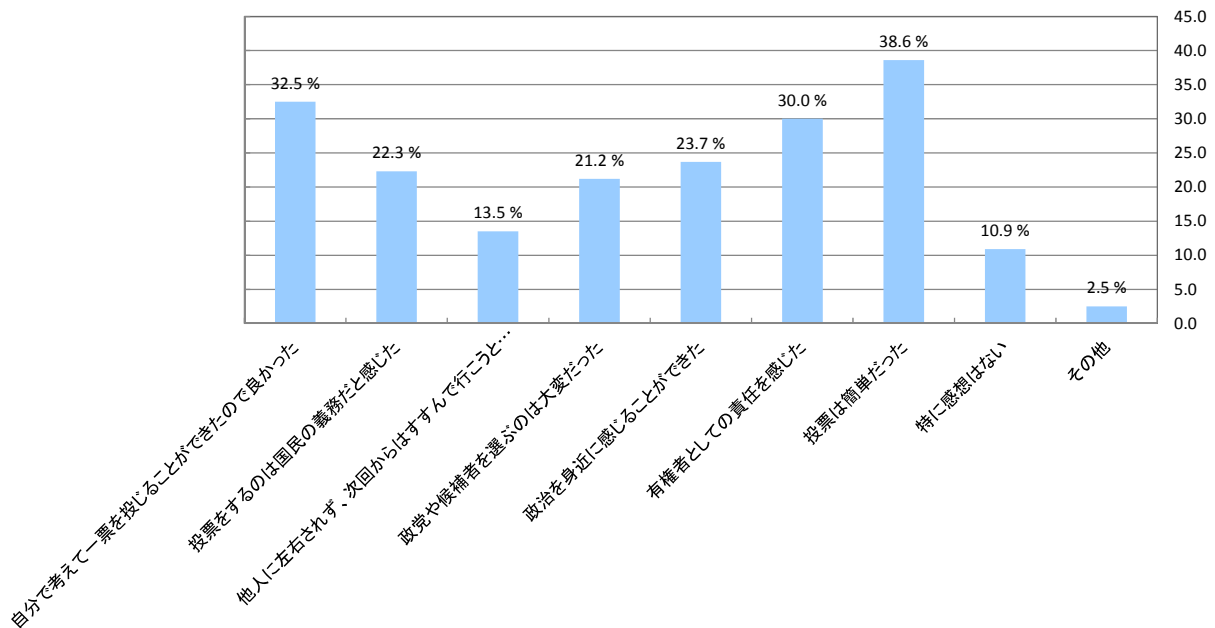


Q 9 あなたは、今回の参議院選挙で一票を投じてみて、どう思いましたか。次の中からあなたの感想に近いものをいくつでも選んでください。(複数回答)

(全体)

●投票に行ったと回答した人(1,574名)に、一票を投じてみてどう思ったかを聞いたところ、「投票は簡単だった」が38.6%と最も多く、次いで「自分で考えて一票を投じることができたので良かった32.5%」、「有権者としての責任を感じた30.0%」の順となった。

- ①投票は簡単だった : 38.6%
- ②自分で考えて一票を投じることができたので良かった : 32.5%
- ③有権者としての責任を感じた : 30.0%
- ④政治を身近に感じる事ができた : 23.7%
- ⑤投票をするのは国民の義務だと感じた : 22.3%
- ⑥政党や候補者を選ぶのは大変だった : 21.2%
- ⑦他人に左右されず、次回からは進んで行こうと思った : 13.5%
- ⑧特に感想はない : 10.9%



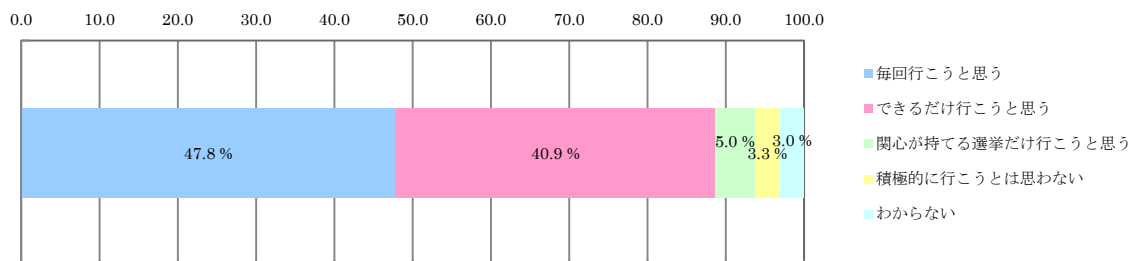
Q 1 0 （投票に行った人に対して）あなたは、今後も投票に行こうと思いますか。（単一回答）

（全体）

●投票に行ったと回答した人（1,574名）に今後も投票に行こうと思うかを聞いたところ、『行こうと思う』が93.7%（※）を占めた。

※以下の合計

- ・毎回行こうと思う : 47.8%
- ・できるだけ行こうと思う : 40.9%
- ・関心が持てる選挙だけ行こうと思う : 5.0%

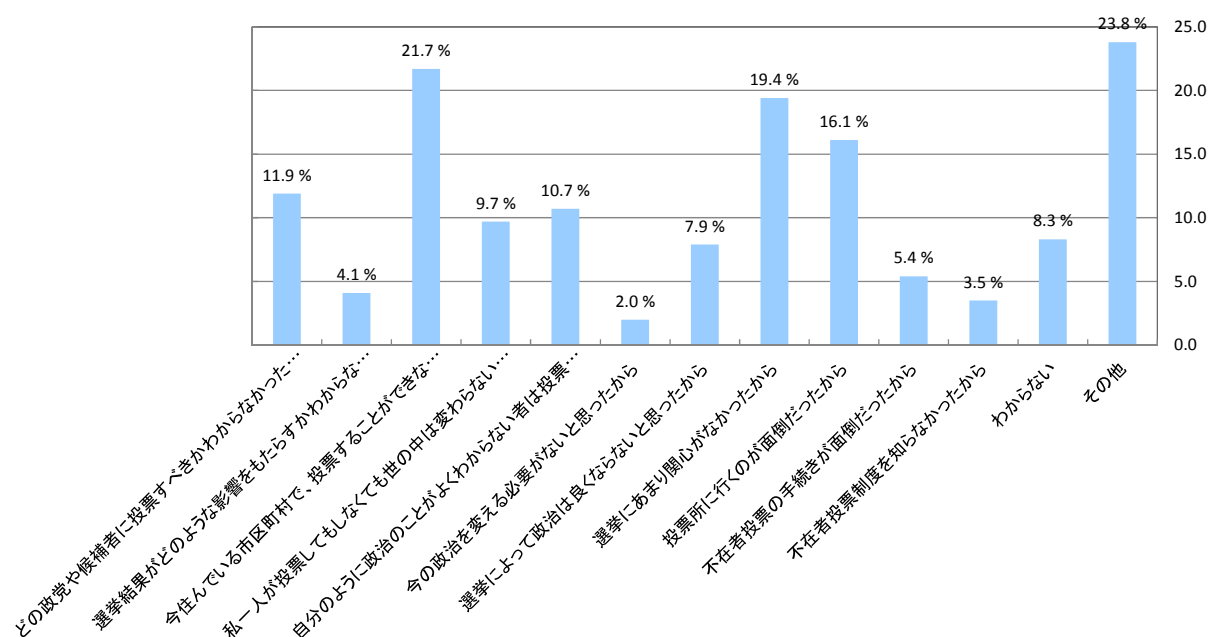


Q 1 1 投票に行かなかったのは、なぜですか。次の中からあなたの考えに近いものをいくつか選んでください。(複数回答)

(全体)

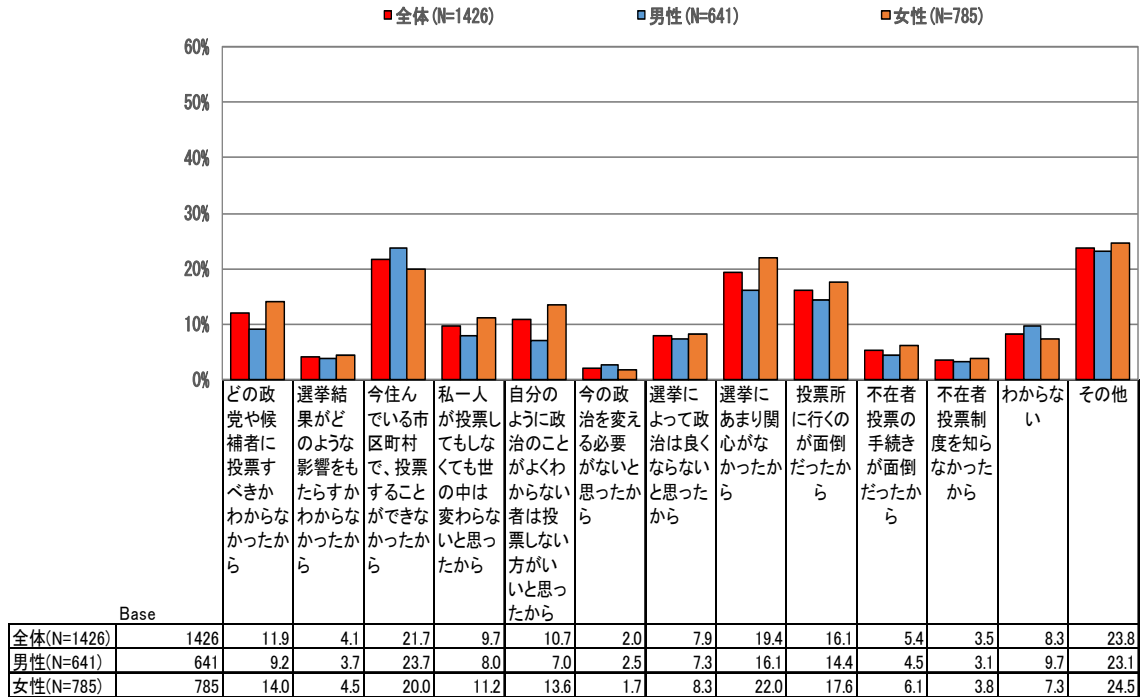
●投票に行かなかったと回答した人(1,426名)にその理由を聞いたところ、「今住んでいる市区町村で投票することができなかったから」が21.7%と最も多く、次いで「選挙にあまり関心がなかったから19.4%」「投票所に行くのが面倒だったから16.1%」であった。

- ①今住んでいる市区町村で投票することができなかったから : 21.7%
- ②選挙にあまり関心がなかったから : 19.4%
- ③投票所に行くのが面倒だったから : 16.1%
- ④どの政党や候補者に投票すべきかわからなかったから : 11.9%
- ⑤自分のように政治のことがよくわからないものは投票しない方がよいと思ったから : 10.7%
- ⑥私一人が投票してもしなくても世の中は変わらないと思ったから : 9.7%
- ⑦選挙によって政治はよくなると思ったから : 7.9%
- ⑧不在者投票の手続が面倒だったから : 5.4%
- ⑨選挙結果がどのような影響をもたらすかわからなかったから : 4.1%
- ⑩不在者投票制度を知らなかったから : 3.5%
- ⑪今の政治を変える必要がないと思ったから : 2.0%



(性別)

- 男女で上位 1～4 位までは同じ項目が入ったが、最も多い回答は、男性では「今住んでいる市区町村で投票することができなかったから 23.7%」だが、女性では「選挙にあまり関心がなかったから 22.0%」であった。



(年齢別)

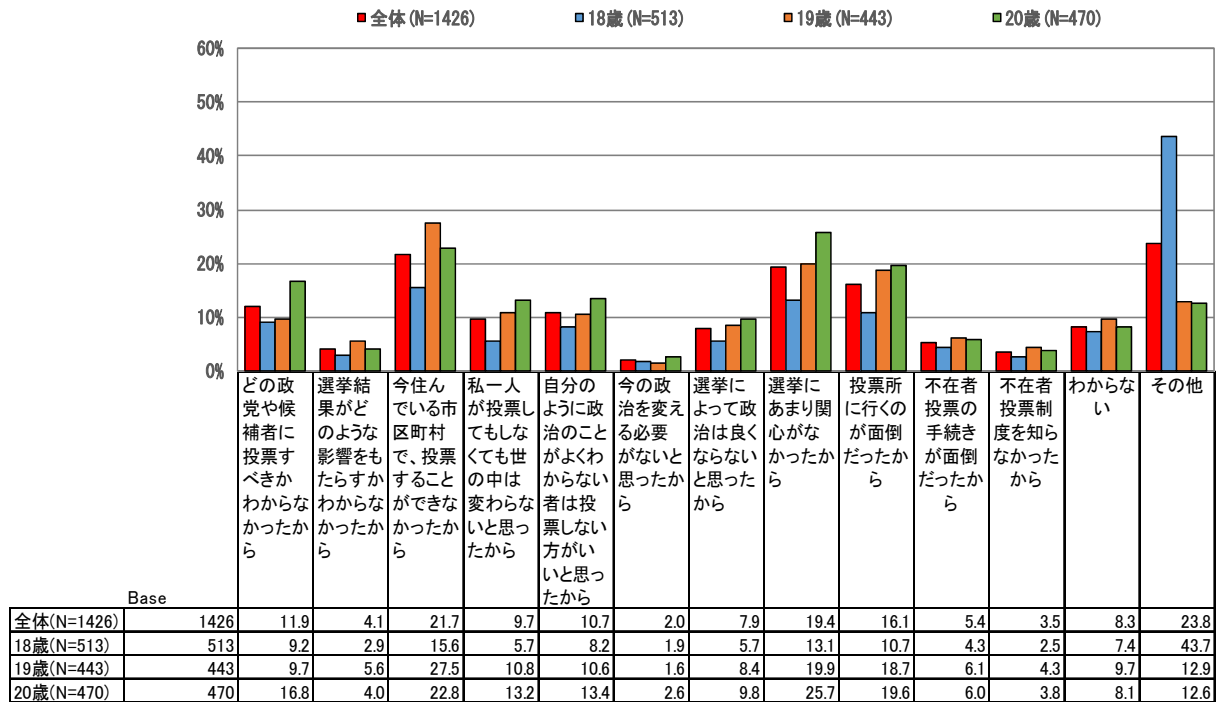
- 全ての年齢で上位 1～3 位までは同じ項目が入ったが、最も多い回答は、18・19 歳では「今住んでいる市区町村で投票することができなかったから 16～28%」、20 歳では「選挙にあまり関心がなかったから 25.7%」であった。
- 年齢による違いがある項目が多い。

〈18 歳 < 19・20 歳〉

- ・今住んでいる市区町村で投票することができなかった：18 歳 15.6% < 19・20 歳 25%前後

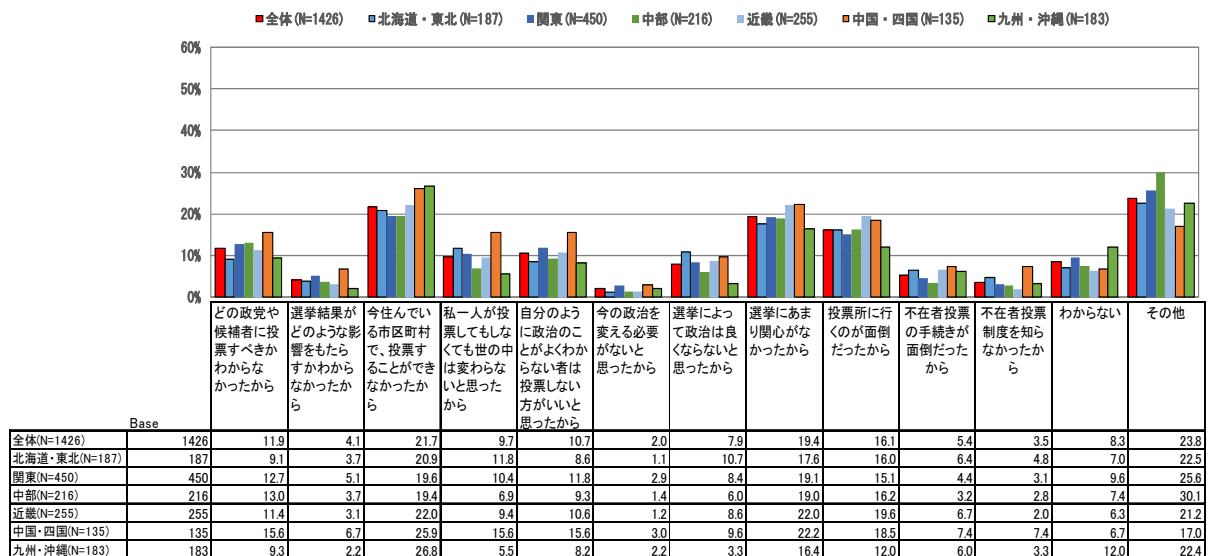
〈年齢が上がるにつれて増加〉

- ・選挙にあまり関心がなかった：18 歳 13.1% < 19 歳 19.9% < 20 歳 25.7%
- ・投票所に行くのが面倒だった：18 歳 10.7% < 19 歳 18.7% < 20 歳 19.6%
- ・どの政党や候補者に投票すべきかわからなかった：18 歳 9.2 歳 < 19 歳 9.7% < 20 歳 16.8%
- ・私一人が投票してもしなくても世の中は変わらない：18 歳 5.7% < 19 歳 10.8% < 20 歳 13.2%
- ・政治のことがよくわからないものは投票しない方がよい：18 歳 8.2% < 19 歳 10.6% < 20 歳 13.4%
- ・選挙によって政治はよくなるか悪くなるかわからない：18 歳 5.7% < 19 歳 8.4% < 20 歳 9.8%



(地域別)

- 全ての地域で上位 1~3 位までは同じ項目が入り、その順位も同じであった。
- ほとんどの項目について地域間で 5 ポイント以上の差が見られるが、以下に、7 ポイント以上の差が見られた項目を示す。
 - ・ 投票所に行くのが面倒だった : 近畿 19.6% > 九州沖縄 12.0%
 - ・ 今住んでいる市区町村で投票することができなかった : 九州沖縄 26.8% > 中部 19.4%
 - ・ 政治のことがよくわからないものは投票しない方がよい : 中国四国 15.6% > 九州沖縄 8.2%
 - ・ 選挙によって政治はよくなるかと思っただけ : 北海道東北 10.7% > 九州沖縄 3.3%



Q 1 2 （投票に行かなかった人に対して）あなたは今後、投票に行こうと思いますか。

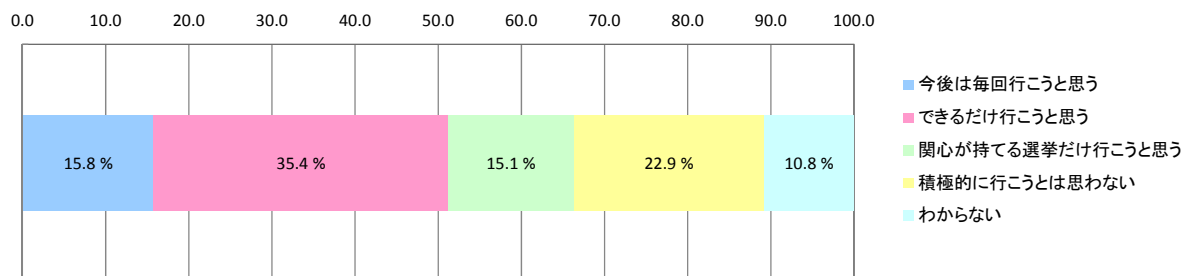
（単一回答）

（全体）

●投票に行かなかったと回答した人（1,426名）に今後の投票意向を聞いたところ、『行こうと思う』は66.3%（※）であった。

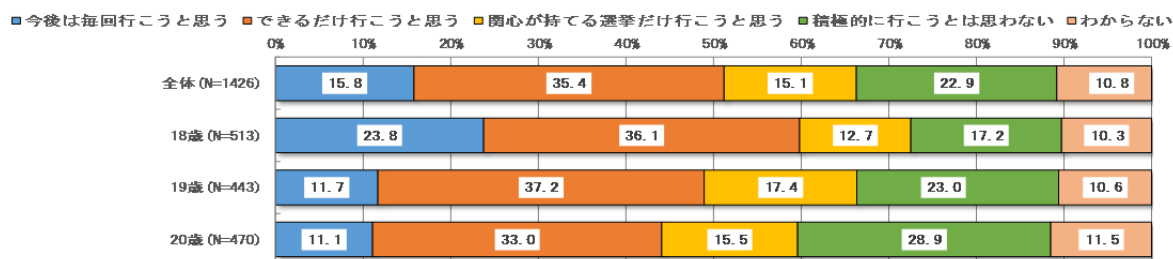
※『行こうと思う66.3%』は以下の合計

- ・ 今後は毎回行こうと思う : 15.8%
- ・ できるだけ行こうと思う : 35.4%
- ・ 関心が持てる選挙だけ行こうと思う : 15.1%



（年齢別）

●『行こうと思う』は18歳が72.6%で最も多いが、年齢があがるにつれて6~7ポイントずつ減少していき（18歳72.6% > 19歳66.3% > 20歳59.6%）、更にその中の「毎回行こうと思う」は18歳（23.8%）が19・20歳（11%強）の2倍超となっている。

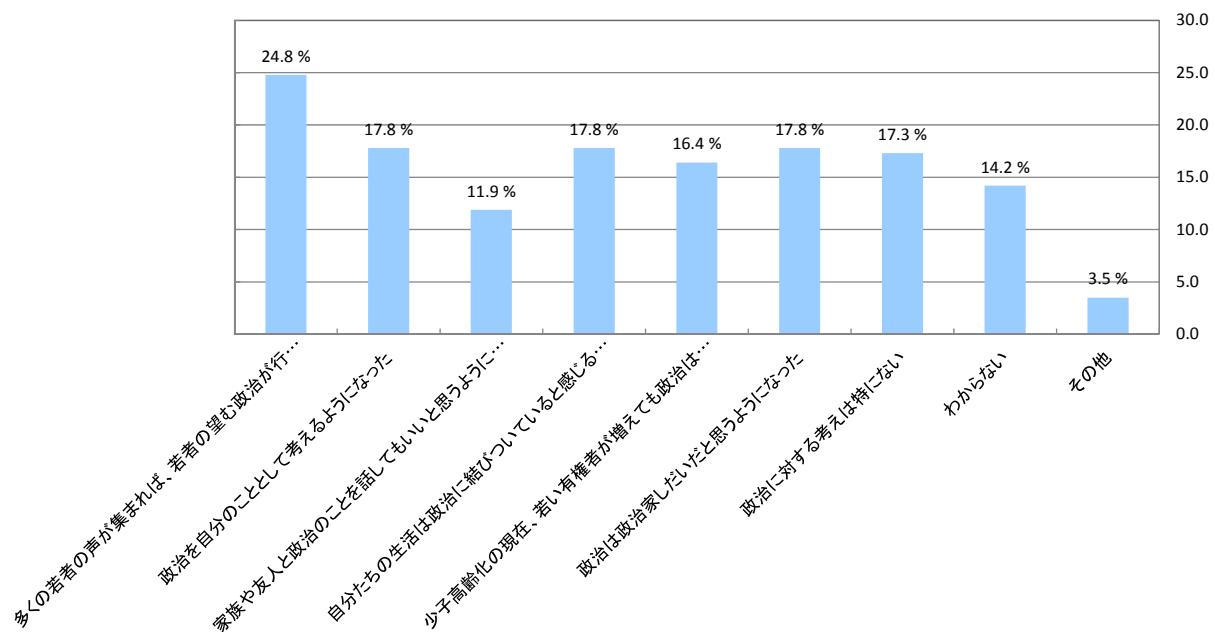


Q 13 選挙権年齢の引き下げ後に行われた初の国政選挙（参議院選挙）を通じて、あなたの政治に対する考えに近いものを、次の中からいくつでも選んでください。（複数回答）

（全体）

●参議院選挙を通じて政治に対する考えを聞いたところ、「多くの若者の声が集まれば若者の望む政治が行われると思うようになった」が24.8%と最も選択された。

- ①多くの若者の声が集まれば若者の望む政治が行われると思うようになった：24.8%
- ②政治を自分のこととして考えるようになった：17.8%
- ②自分達の生活は政治に結びついていると感じるようになった：17.8%
- ②政治は政治家しだいだと思うようになった：17.8%
- ⑤政治に対する考えは特にない：17.3%
- ⑥少子高齢化の現在、若い有権者が増えても政治は変わらないと思った：16.4%
- ⑦家族や友人と政治のことを話してもいいと思うようになった：11.9%
- ⑧わからない：14.2%

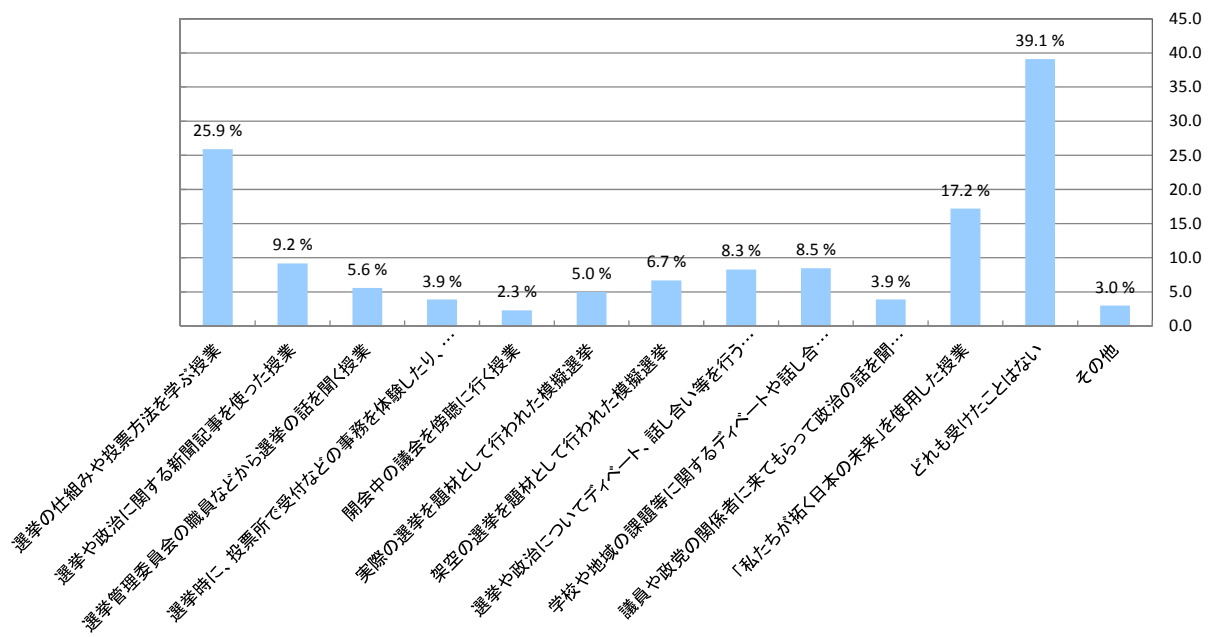


Q14 あなたは、高校（高専等含む）の時に、選挙や政治に関してどのような授業を受けましたか。次の中からいくつでも選んでください。（複数回答）

（全体）

●高校（高専等含む）の時に受けた選挙や政治に関する授業については、「選挙の仕組みや投票方法を学ぶ授業」が25.9%と最も多く、次いで『私たちが拓く日本の未来』を使用した授業の17.2%が続く。ほかは10%に届かず、39.1%の人は「どれも受けたことがない」を選択している。

①選挙の仕組みや投票方法を学ぶ授業	25.9%
②「私たちが拓く日本の未来」を使用した授業	17.2%
③選挙や政治に関する新聞記事を使った授業	9.2%
④学校や地域の課題等に関するディベートや話し合い等を行う授業	8.5%
⑤選挙や政治についてディベート、話し合い等を行う授業	8.3%
⑥架空の選挙を題材として行われた模擬選挙	6.7%
⑦選挙管理委員会の職員などから選挙の話聞く授業	5.6%
⑧実際の選挙を題材として行われた模擬選挙	5.0%
⑨選挙時に投票所で受付体験、街頭での投票参加啓発キャンペーンへの参加	3.9%
⑩議員や政党関係者から政治の話聞く授業	3.9%
⑪開会中の議会を傍聴に行く授業	2.3%
※どれも受けたことはない	39.1%



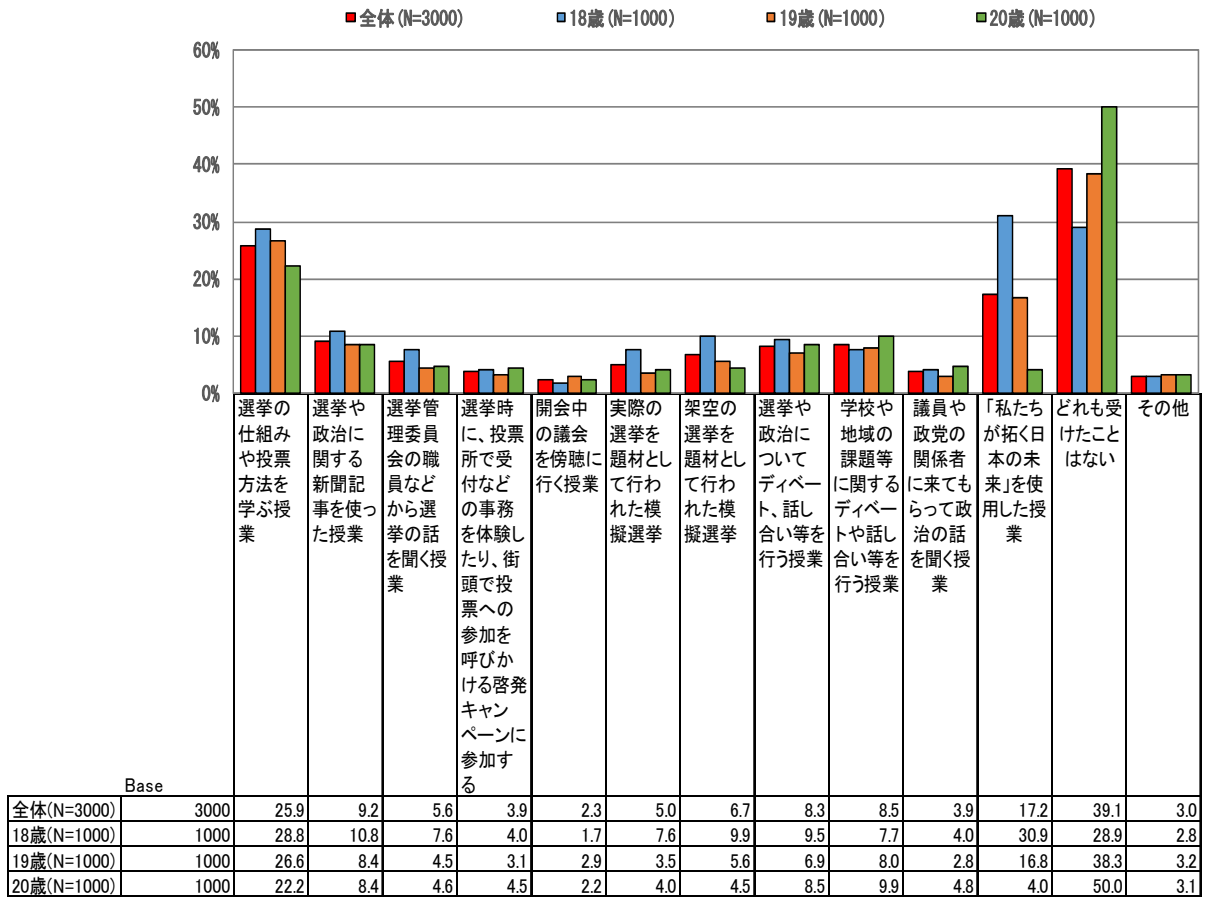
(年齢別)

●「どれも受けたことがない」が年齢が上がるにつれて増加する。18歳では28.9%だが、19歳では38.3%へ、そして20歳では50.0%と半数にまで増加する。

●受けた授業については概ね年代が上がるにつれて減少していくが、以下の授業ではその傾向がやや強くなっている。

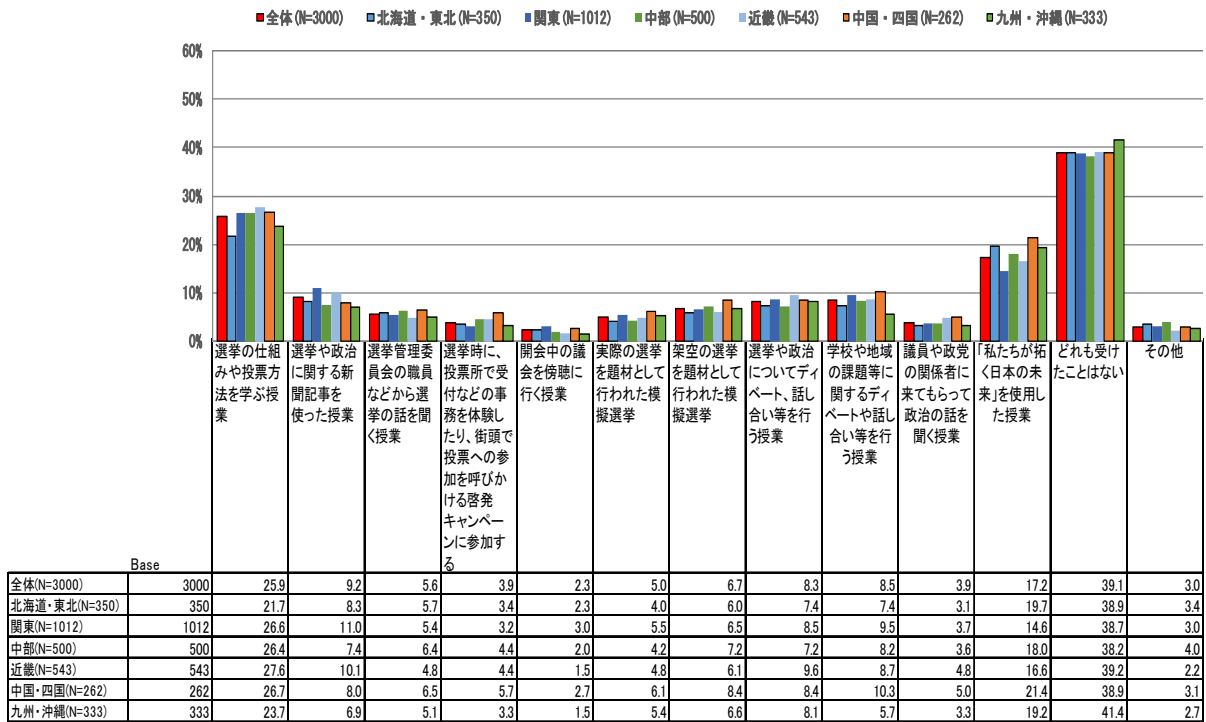
〈年齢が上がるにつれて減少〉

- ・「私たちが拓く日本の未来」を使用した授業：18歳30.9%>19歳16.8%>20歳4.0%
- ・選挙の仕組みや投票方法を学ぶ授業：18歳28.8%>19歳26.6%>20歳22.2%
- ・架空の選挙を題材として行われた模擬選挙：18歳9.9%>19歳5.6%<20歳4.5%



(地域別)

- 全ての地域で「どれも受けたことはない」が 38～41%を占め、また、受けた授業としては上位 1～2 位まで同じ順番となった。
- ほとんどの授業について地域間の差は 5 ポイント未満に収まっているが、以下に、5 ポイント以上の差が見られた授業を示す。
 - ・「私たちが拓く日本の未来」を使用した授業：中国四国 21.4% > 関東 14.6%
 - ・選挙の仕組みや投票方法を学ぶ授業：近畿 27.6% > 北海道東北 21.7%

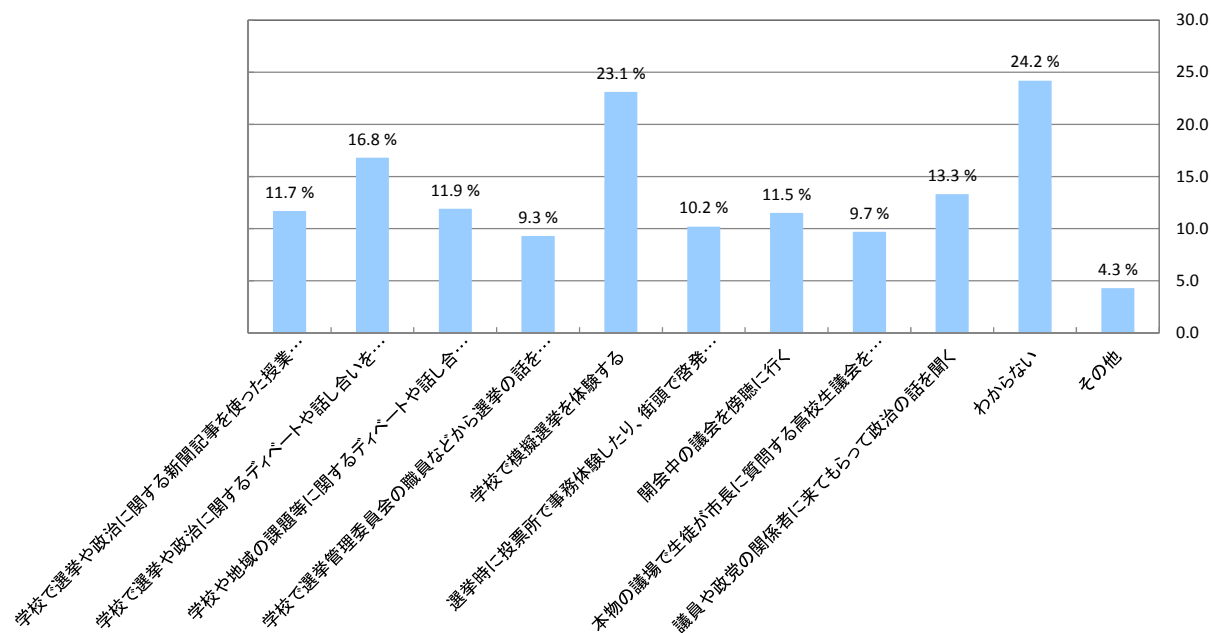


Q15 平成27年度より高校生向け副教材「私たちが拓く日本の未来」が全国の高校に配布されていますが、あなたは、高校生がより選挙や政治に関心を持つためには、何をすればよいと思いますか。当てはまるものを2つまで選んでください。(複数回答2つまで)

(全体)

● 高校生が選挙や政治に関心を持つために何をすればよいと思うか尋ねたところ、「学校で模擬選挙を体験する」が23.1%で最も多かった。

①学校で模擬選挙を体験する	: 23.1%
②学校で選挙や政治に関するディベートや話し合いを行う	: 16.8%
③議員や政党の関係者に来てもらって政治の話を聞く	: 13.3%
④学校や地域の課題等に関するディベートや話し合いを行う	: 11.9%
⑤学校で選挙や政治に関する新聞記事を使った授業を受ける	: 11.7%
⑥開会中の議会を傍聴に行く	: 11.5%
⑦選挙時に投票所で受付体験、街頭での投票参加啓発キャンペーンへの参加	: 10.2%
⑧本物の議場で生徒が市長に質問する高校生議会を開催する	: 9.7%
⑨学校で選挙管理委員会の職員などから選挙の話を聞く	: 9.3%
⑩わからない	: 24.2%

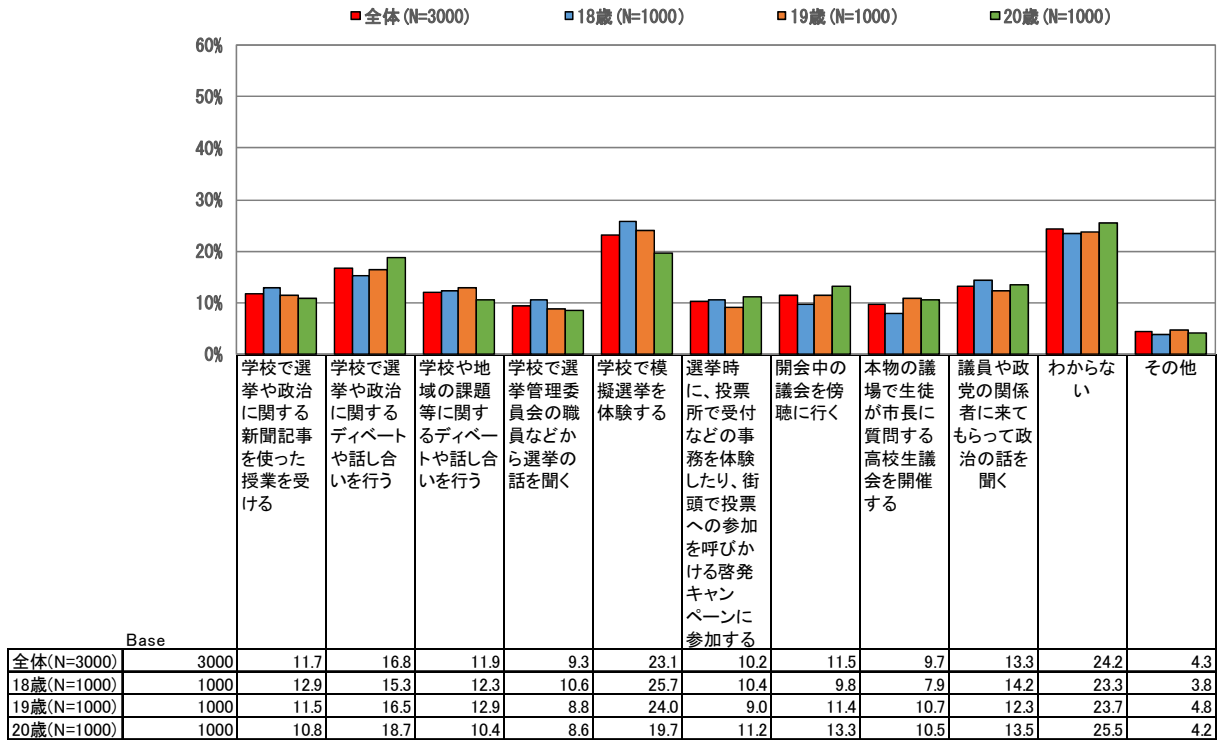


(年齢別)

- 全ての年齢で上位1~2位までが同じであった。
- また、ほとんどの項目で年齢による違いは小さいが、以下の授業についてはやや大きな差が発生した。

(年齢が上がるにつれて減少)

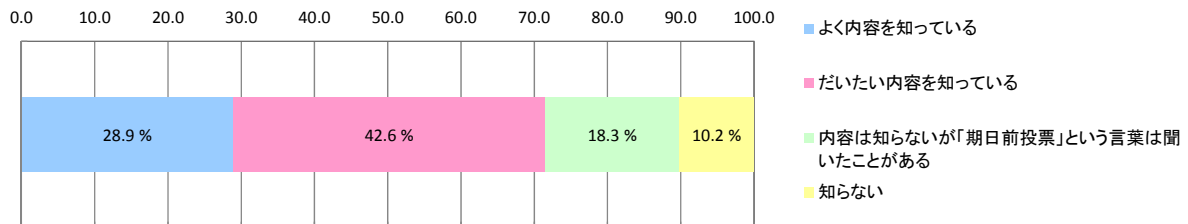
- ・学校で模擬選挙を体験する：18歳 25.7% > 19歳 24.0% > 20歳 19.7%



Q 16 投票日当日に予定がある方は、投票日の前に期日前投票所で投票することができます。これを期日前投票といいますが、あなたは知っていますか。(単一回答)

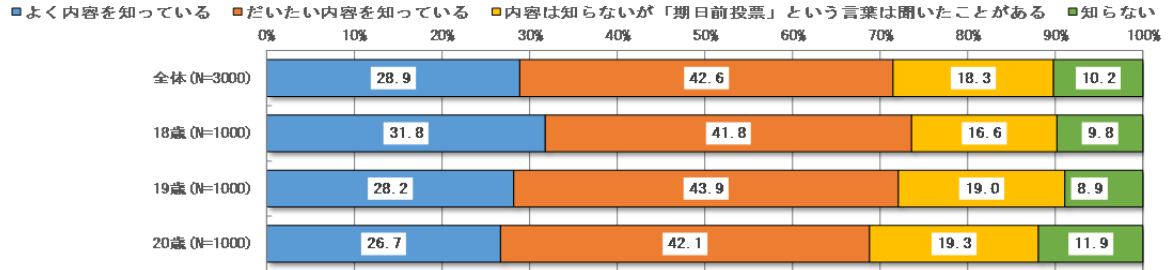
(全体)

- 期日前投票については、「よく内容を知っている」が28.9%、「だいたい内容を知っている」が42.6%で、71.5%が『知っている(よく+だいたい)』と回答した。



(年齢別)

- 「よく内容を知っている」は18歳が31.8%、19歳が28.2%、20歳が26.7%と年齢が上がるにつれて認知度は低下する。これは「だいたい内容を知っている」を加えても変わらない(18歳73.6%、19歳72.1%、20歳68.8%)。

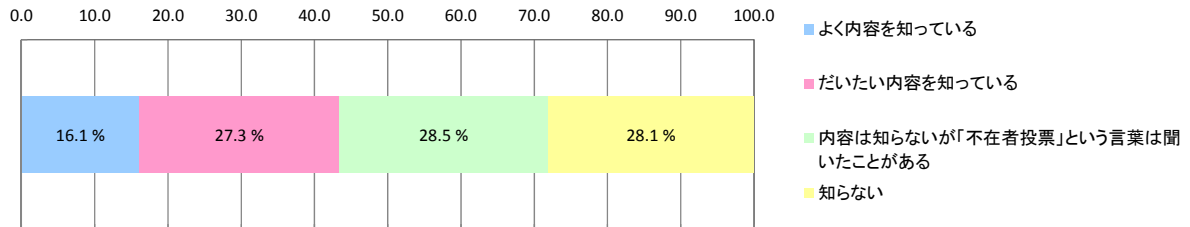


Q 17 選挙期間中、他の市町村に滞在している方、病院等の施設にいる方、身体障害等の要件に該当する方は、不在者投票をすることができますが、あなたは知っていますか。

(単一回答)

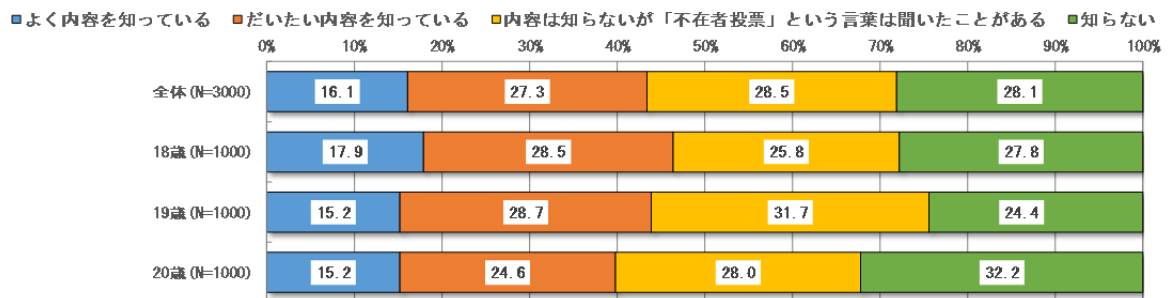
(全体)

- 不在者投票について、「よく内容を知っている」が16.1%、「だいたい内容を知っている」が27.3%で、43.4%が「知っている(よく+だいたい)」と回答したが、半数に満たなく、期日前投票制度ほど認知されていない。



(年齢別)

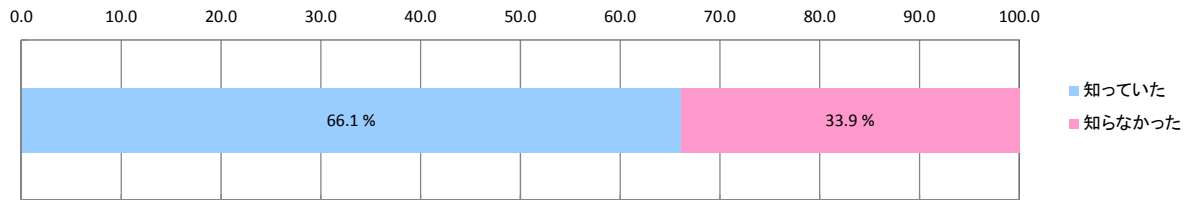
- 「よく内容を知っている」は18歳が17.9%、19歳が15.2%、20歳も15.2%となり、年齢が上がるにつれ認知度は低下する。さらに「だいたい内容を知っている」を加えると、顕著な差が見られた(18歳46.4%、19歳43.9%、20歳39.8%)。



Q 1 8 進学や就職などに伴い、実家などを離れる方は、引っ越し先の市区町村へ住民票を移さなければなりません。あなたはこのことを知っていますか。(単一回答)

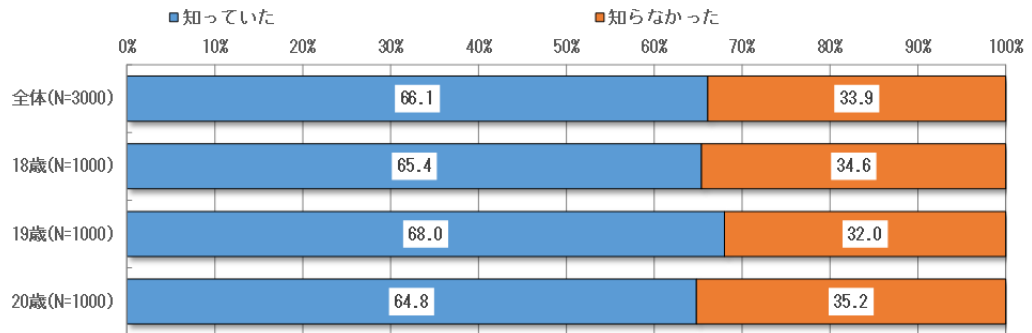
(全体)

- 進学や就職などに伴い実家などを離れる場合は引越先の市区町村へ住民票を移す必要があることについては、「知っていた」は 66.1%であった。



(年齢別)

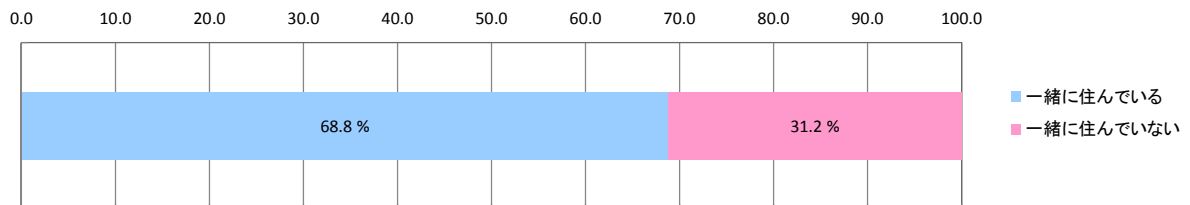
- 「知っていた」は 18 歳が 65.4%、19 歳が 68.0%、20 歳が 64.8%と、認知度は概ね同程度であった。



Q 1 9 あなたは、親御さんと一緒に住んでいますか。(単一回答)

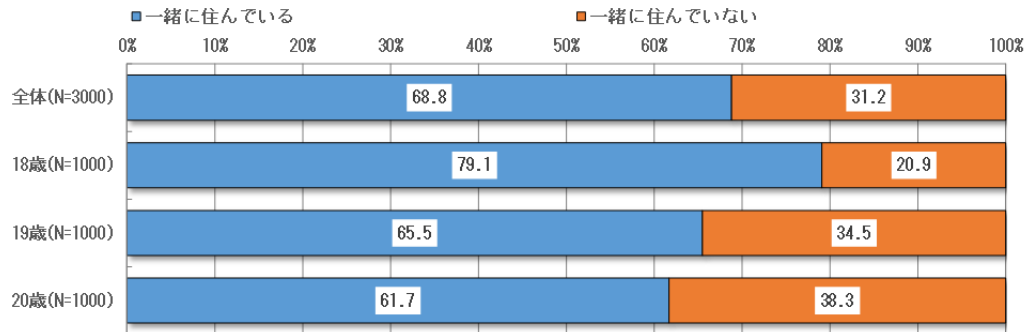
(全体)

- 「親と同居」は 68.8%であった。



(年齢別)

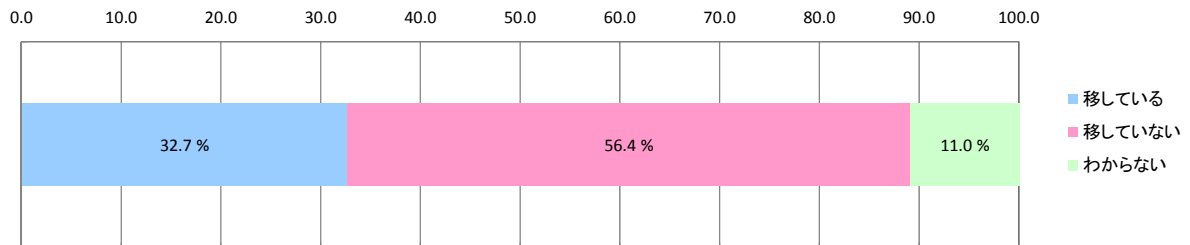
- 「親と同居」は18歳が79.1%で最も多く、年齢が上がるにつれて減少し、19歳では65.5%に、20歳では61.7%になる。



Q20 あなたは、現在あなたが住んでいる市区町村に住民票を移していますか。(単一回答)

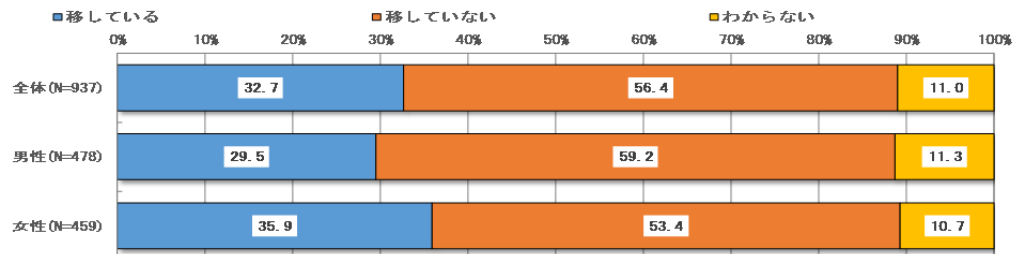
(全体)

- 前問で「親と一緒に住んでいない」と回答した人(937名)に住民票の異動について聞いたところ、「移している」は32.7%に留まり、「移していない」が56.4%で半数を超えて最も多く、「わからない」が11.0%であった。



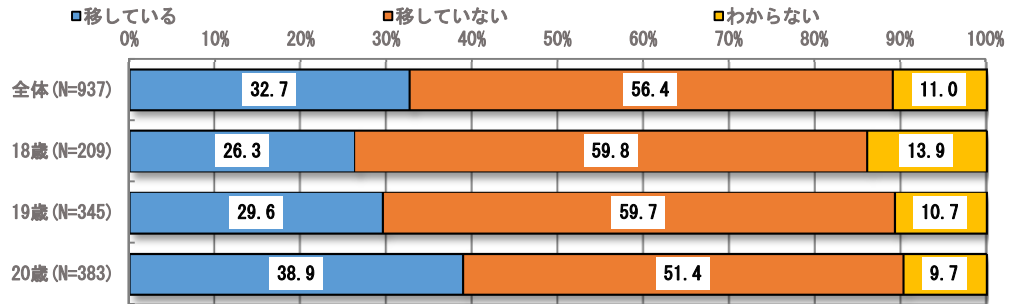
(性別)

- 「移している」は女性(35.9%)が男性(29.5%)より約6ポイント多い。



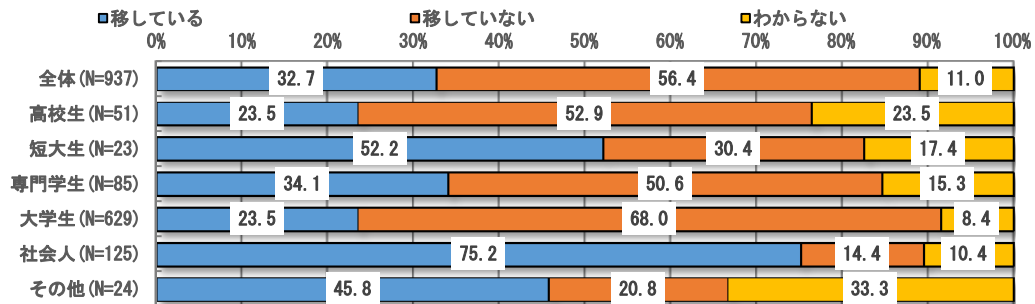
(年齢別)

- 「移している」は18歳が26.3%で最も少なく、年代が上がるにつれて多くなり、19歳では29.6%、20歳では38.9%になる。



(学校の種類・社会人別)

- 学校の種類・社会人別に見ると、「移している」は社会人では75.2%で3/4超を占めたが、学生は30%前後の低い水準に留まっている（高校生、大学生 23.5%・専門学生 34.1%）。



Q 2 1 (住民票を移していない人に対して) なぜ移さないのですか。(単一回答)

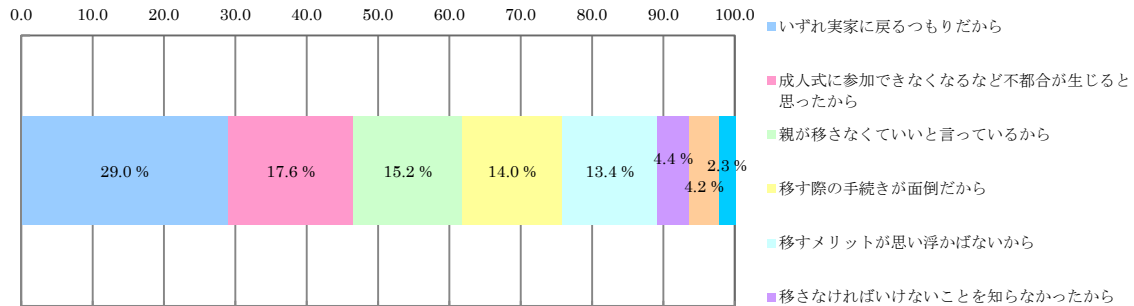
(全体)

- 前問で「(親と一緒に住んでいないが) 住民票を移していない」と回答した人(528名)のその理由はやや分散したが多い順に以下となり、「いずれ実家に戻るつもりだから」が29.0%で最も多い。

- ① いずれ実家に戻るつもりだから : 29.0%
- ② 成人式に参加できなくなるなど不都合が生じると思って : 17.6%
- ③ 親が移さなくていいと言っているから : 15.2%
- ④ 移す際の手続が面倒だから : 14.0%
- ⑤ 移すメリットが思い浮かばないから : 13.4%
- ⑥ 移さなければいけないことを知らなかったから : 4.4%

⑦わからない : 4.2%

⑧その他 : 2.3%

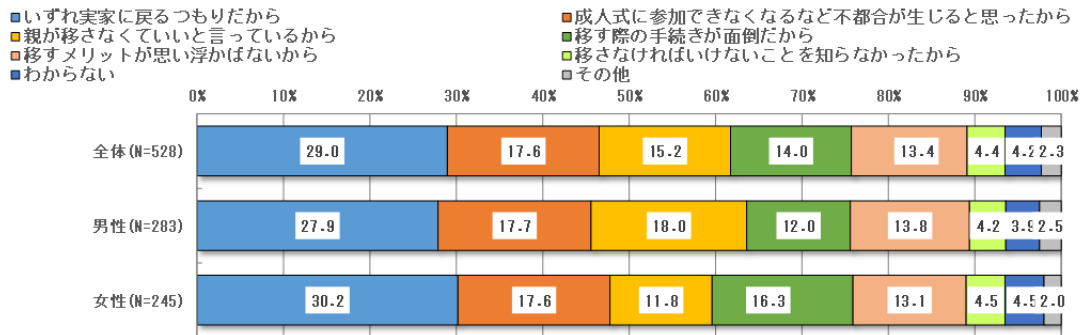


(性別)

●男女でほとんどの項目で大きな違いはないが、以下の項目ではやや差が大きい。

〈男性>女性〉

・親が移さなくていいと行っているから : 男性 18.0% > 女性 11.8% (約 6 ポイント差)

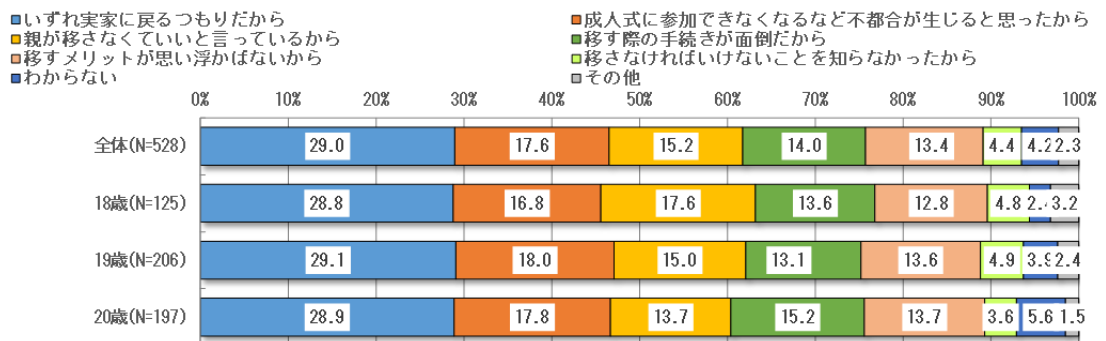


(年齢別)

●年齢による違いは少ないが、以下の理由については年代が上がるにつれて少なくなる傾向がある。

〈年齢が上がるにつれて減少〉

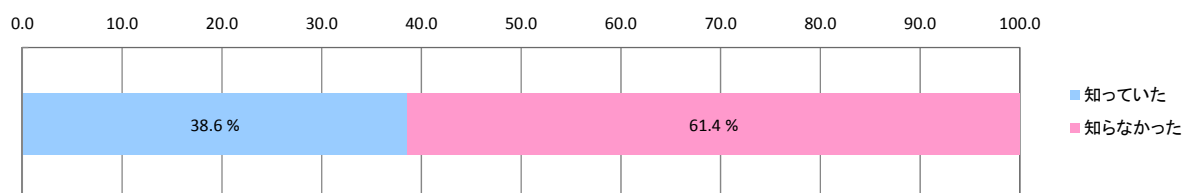
・親が移さなくていいと行っているから : 18歳 17.6% > 19歳 15.0% > 20歳 13.7%



Q 2 2 現在住んでいる市区町村で投票をするには、住民票を移してから3か月以上住んでいなければなりません、あなたはこのことを知っていますか。(単一回答)

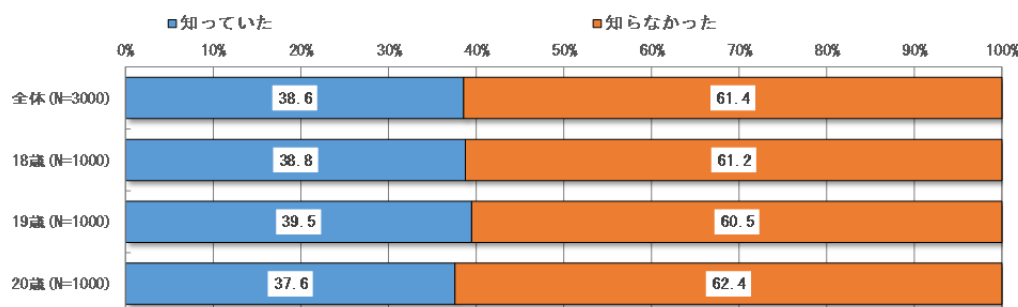
(全体)

- 現在住んでいる市区町村で投票するには住民票を移してから3ヶ月以上住んでいなければいけないことについては、「知っていた」は38.6%であった。



(年齢別)

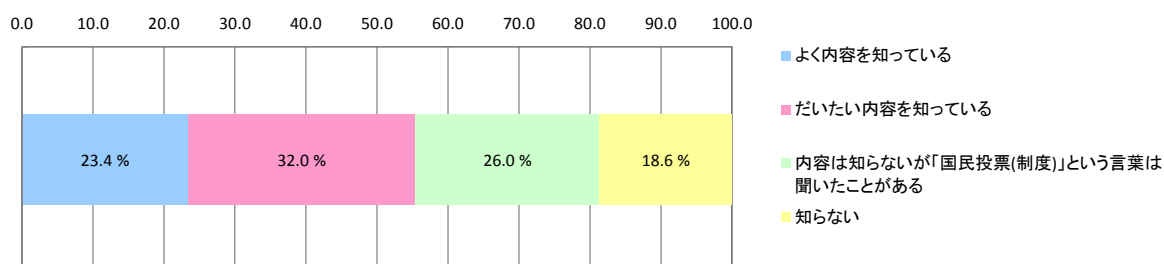
- 全ての年代で「知っていた」は38%前後であり、年齢による違いはない。



Q 2 3 あなたは、憲法改正のための国民投票制度（憲法改正国民投票制度）を知っていますか。(単一回答)

(全体)

- 憲法改正のための国民投票制度（憲法改正国民投票制度）の認知度は81.4%（「よく内容を知っている23.4%」「だいたい内容を知っている32.0%」「内容は知らないが『国民投票(制度)』という言葉は聞いたことがある」の合計）であった。



以上